京城日報

發行所 京城太平通一丁目 合資會社京城日報社
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介

一月八日夕刊（朝夕併せて八頁）

◇聯合國讓歩 國際聯盟案

海洋自由＝獨逸植民地不還附

ウイルソン氏は海洋の自由獨逸植民地不還附の兩問題に就き讓歩し從て聯合國は大體に於てウ氏の國際聯盟案を承認する事に就き同氏に讓歩せしを以て講和會議は著しく簡單のものと爲るべし（巴里電報）

◇講和豫備會議

佛國外務省其他にては一月十三日を以て聯合國講和豫備會議開會の日と解し居れるが同日英佛米伊間に於て敵國に對する一般條件を討議す可く其他聯合國委員は聯合國の條件が決定的に成立したる際巴里に於ける第二回目の會議に於いて協議す可く斯して成立したる條件はヴエルサイユ宮殿に於て催さるゝ講和會議の席上敵國側に提出さる可しと（巴里電報）

◇食糧總監任命

米國食糧總監フーバー氏は休戰後の中立國及び敵國に對する食糧總監に任命されたり（巴里電報）

◇獨逸聯邦建設 マサリック博士の發表

紐育來電＝プラーグよりの報道に依ればマサリック博士はウヰルソン、ロイドジョージ、クレマンソー三氏と共に巴威を盟主とする獨逸聯邦建設に一致する旨發表せり（東京特電）

◇ポーセン波軍の手に歸す アースト講和條約切論

コッペンハーゲン來電＝一月三日附伯林よりの報道に依ればポーセンは今や完全に波蘭軍の手に歸したり彼等は獨逸の國家的勢力擴張運動を破壞し屢次激戰の後總ての官品を押収し獨逸人の家宅を捜索せり又獨逸人に對しては獨逸を退らず獨逸內閣員アーストは兵力を以て之れに干渉するは時機既に遲れたりと云ひ波蘭と講和條約を結ぶの必要を切論せり獨逸新聞はアーストの報告を以て政府の破綻を語るものなりと論ぜり（東京特電）

◇獨西部戰場復員

紐育來電＝西部戰場正面にある獨軍の復員は着々實施しつゝあり東部司令部及び集團軍司令部も目下解散中なり從つて西部戰場正面及び中立の地帶に於ける軍隊の指揮權は全然平時の軍團長の手に移る事となりしより獨逸側より敵對行爲を再開する事は最早不可能となれり（東京特電）

◇ヘルトリング逝去

獨逸前宰相ヘルトリング伯は逝去せり（巴里電報）

◇出征軍歸還準備 ＝主腦部は歸還せず＝

浦鹽並に北滿派遣部隊の召還に關しては舊臘陸軍省より發表する所ありたるが我出兵の目的も略完成せられたる以上最早必要なる兵員のみを留め他は速かに召還すべく決定し目下運送船及び出征地引揚げの準備中にて浦鹽方面よりの出征軍は浦鹽より北滿方面の出征軍は釜山より各內地に凱旋する豫定なるが其期間は一月中旬頃より約一箇月間を要すべく尤も運送船の都合及び陸上交通の關係に依り多少遲延を見るに至るやも測り難し尚ほ大谷軍司令官を始め主腦部は派遣兵半減するも凱旋する能はざる事情あり引續き出征地に留まるべしと（東京特電）

◇加兵出征拒絶

浦鹽來電＝加奈陀兵の談に依れば加奈陀政府は西伯利に軍隊を增派すべく計畫中なるが兵士は戰亂終熄せるを理由として之れに應ぜず且つ民間の有力者も之れを拒絶すべしと勸誘し居れり（東京特電）

◇蘭貢米の解禁 多量の輸入あらん

蘭貢米輸出禁止に就き舊臘來交渉の結果今回右輸出禁止令を解除したる旨其筋に入電ありたり今後多量に輸入さる可く豫期せらる（東京特電）

◇米穀增殖施設

農商務省にては國內米穀の供給を一層增加せしむる爲め昨年末各地に技師を派遣したるが更に各府縣食糧增殖獎勵打合せ及び視察の爲め一月三十日より大塚農事試驗場九州支場長を長崎熊本山口各縣に派遣し右終了後引續き他の各縣に及ぼすべしと（東京特電）

◇高等教育機關 優良教員養成

大正八年度に着手す可き高等教育機關七校は左の如く決定せり ▲高等學校（松江、青森）▲高等農林學校（福島、大分）▲外國語學校（大阪）▲高等商業學校（津）▲高等工業一校の敷地は目下のところ未定なり又優良教員養成の目的にて帝大給費制度を擴大し一學年給費生二十名を五十名とし既定の給費額二十圓を三十圓に增額し外國留學生も增加さるる事となれり（東京特電）

◇西園寺侯動靜

六日午後興津より歸京せる西園寺侯は七日午前十時半永田町首相官邸內の講和委員事務所に赴き事務を閱覽したる後原首相と會談正午午餐を共にし午後二時退出せり（東京特電）

◇外務省通商局長

今回左の通り辭令ありたり（東京特電）

任外務省通商局長 大使館參事官 田中都吉

◇政務總監通過

山縣政務總監は八日朝釜山上陸佐々木鐵道局長官其他官民の出迎へを受け鐵道ホテルに少憩の後十時半發列車にて北行午後九時歸城すべし（釜山特電）

◎北鮮航路 露國義勇艦企畫 某海運通談

露國義勇艦隊にては今回浦鹽北鮮間の航路を開始する事となりし旨過般清津電報の報じ來れる所なるが右に付海運通の談を聞くに義勇艦隊の初航チーフ號は七日清津に於て砂糖麥粉四百餘噸を滿載し浦鹽に歸航せしものの如し思ふに同艦隊の北鮮航路開始は同艦隊所有船の餘裕を以て浦鹽物資缺乏を補ふため之れを行ふならん元來同艦隊は浦鹽を中心としニコリスク方面に航路を有し居れど結氷期中は案外より休航の餘儀なきものあり從つて船腹の剩餘多きに付北鮮航路を開始せしものなるべく春暖と共にニコリスク方面に復航するに至らん尚ほ同艦隊は碎氷船を有し碎氷船を有せざるも船舶の建造碎氷に適するを以て浦鹽港內外に於ける位の結氷なれば之れを碎くに困難なし素より朝鮮郵船の北鮮浦鹽航路に對抗する意味にあらざるべし

◎植民地と言論機關（二）

元中樞院書記官長 中外新論社社長 小松綠

自分が朝鮮に十年內外在住の經驗に見るも言論の壓迫の聲を聞くのは內地よりも朝鮮の方が多かつた又朝鮮では內地よりも言論の取締の峻嚴なるは事實である、夫れは何故かと言へば內地に於て政府の攻擊をする場合或は危險思想を流布する場合でも

▲一般の人智が 進んで居るために其言論は誤解をされると云ふ意外の反響を來すことかい、一つは極めて尠い。それから今一つは頗る不穩なことであるが新聞は故意に事實を枉げ或は是を非とし非を是として罪に群衆の意を迎へると云ふ弊害が往々ある、つまり賤商政策のために無責の言論を逞しくする弊害もあることも一般公衆の頭に沁み込んでゐる、それで公衆の方から見て言論の權威がだん／＼薄くなつて來るので言はば公衆の言論機關に對する感覺が頗る鈍くなつてゐる。これがために言論機關の記事論說を重要視しない、所謂雲煙過眼視する態になつてゐる、多少の

▲奇激な議論を しても其の威力も弊害も少い、之れに反して新領土、植民地等に於ては公衆の感覺が頗る銳敏で爲めに少しく奇激に渉る言論でもその紙面に現はれた文字以上に擴大した感想を起さしめることになる。新聞が針小棒大の議論をすることになると一般公衆は更に之に多大の和を加へてその感想を擴大することになるので言論者自身の思想以上に危險ある感情を誘發することも間々あることである。これが朝鮮あたりの新聞、特に最も敏感なる民衆を有する地方に於ては言論機關の威力がよい方面にも惡い方面にも發揮せられる所以でその取締も自然嚴重にせなければならぬことになつて來る。是れは日本のみでなく最も言論の自由を尊重する

▲英國に於ても 同じ現象を見る。例之、英國では言論の取締は司法處分に委ねて、普通司法上の罪として朝憲を紊亂すること風俗を紊ることかいふ罪に問はれて處分をうけるだけであるが、ところがこれが印度に來ると、行政處分を以て發賣頒布を禁止されることも恰も朝鮮に於ける如しである、これは印度領有以來長年月を經過せるも不謹愼なる言論よりして一揆騷動を起したこと往々少くない故である。故に植民地又は新領土に於ける言論機關は一方に於てその拘束を感ずる不便はあるけれ共、他方に於てはその一言一句が偉大なる權威を持つて居る愉快が有るのである。但、自分は此の言論指導の方法として

▲一種の理想を 有つて居る。それは言論の壓迫と危險思想の撲滅といふことでこれは往々耳にする言葉であるが若し言論自由の制限と言論壓迫を同一視せば大なる誤りでありまた危險思想の撲滅とその匡正とをも同視してはならぬ。（東京支局）

◎昨年朝鮮貿易 輸移出入三億二千二百萬圓（一）

大正七年中に於ける朝鮮貿易は地金銀に於て不振を呈したるも貨物にありては空前の伸暢を遂げたり即ち

▲貨物貿易は 輸移出一億五千五百九十萬餘圓輸移入一億六千三十九萬餘圓合計三億一千六百三十萬餘圓にして前年に比し輸移出七千九十三萬餘圓（八割三分）輸移入五千六百三十萬餘圓（五割四分）合計一億二千七百二十四萬餘圓（六割七分）を激增せり地金銀貿易は輸移出六百二萬餘圓輸移入三千六萬餘圓合計六百三十九萬餘圓にして前年に比し輸移出三百六十二萬餘圓（三割八分）を減少したるを以て輸移入十九萬餘圓（十一割五分）を增加したるに拘らず合計に於て三百四十二萬餘圓（三割五分）の減退を示し結局貿易總額は輸移出一億六千百九十二萬餘圓輸移入一億六千七十六萬餘圓合計三億二千二百六十九萬餘圓にして

▲前年に比し 輸移出六千七百三十一萬餘圓（七割一分）輸移入五千六百五十萬餘圓（五割四分）合計一億二千三百八十二萬餘圓（六割二分）を增進せり次に出入貿易の權衡を觀察するに大正六年に於ては入超九百六十五萬餘圓を算したりしも本年は輸移出の增進に輸移入の增加を超過したるを以て一轉して出超百十五萬餘圓を示せり叙上の大勢を表示すれば左の如し

▲大正七年貿易額對前年比較（陸接國境貿易包含）

		大正七年	同六年
貨物	輸移出	一五五、九〇一、六一六	八四、九六二、九七三
	輸移入	一六〇、三九九、四二一	一〇四、〇九五、三一六
	計	三一六、三〇一、〇四一	一八九、〇五八、二八九
地金銀	輸移出	六、〇二三、六六二	九、六四五、七一四
	輸移入	三六八、六八二	一七一、八九八
	計	六、三九二、三四四	九、八一七、六一二
通計	輸移出	一六一、九二五、一七八	九四、六〇八、六八七
	輸移入	一六〇、七六八、〇七七	一〇四、二六七、二一四
	計	三二二、六九三、三八五	一九八、八七五、九〇一
出入超過		（出超）一、一五七、一七一	（入超）九、六五八、五二七

▲願ふに叙上 貿易の伸暢は朝鮮經濟力の膨脹及び一般物價昂騰の結果に外ならざるものにして輸移出にありては各種產業の發展並に之に伴ふ生產物販路の擴張等に依る實質的漸進の大勢と各品の市價昂貴と相呼應して未曾有の膨大を促し輸移入に在りては生產國に於ける供給不足其他諸種の制限的原因に依り往々減退せる貨物ありたるに拘らず輸移出貿易の增大數年來勃興せる新規事業經營の進捗等幾多の積極的原因によりて生計費資料事業建設材料及び製產資料等の增加せるもの少からざりしのみならず各品市價一般に昂騰せるを以て之亦

▲顯著の增大 を呈したるものと云ふべし更に地金銀の輸移出減退は主として金地金の減少に基因するものにして金地金の減少は金の價格固定的なるに際し勞銀及び藥品其他の材料等騰貴の爲め地方小規模鑛業の休止に因るものなり以下輸移出重要品の狀況に就き詳說する處あらんとす

▽輸移出重要品

重要輸移出品の狀況を觀るに小麥四十九萬餘圓含金銀粗銅百二十九萬餘圓牛皮七十萬餘圓皮革製品百萬餘圓を減退せりと雖も米三千四百十二萬餘圓の激增を初めとし豆類百五十三萬餘圓魚類五百七十八萬餘圓棉花百八十九萬餘圓繭百八十三萬餘圓金鑛及び汰金八十九萬餘圓鐵鑛七十四萬餘圓銅塊及び錠八十一萬餘圓實百七十九萬餘圓生牛百二十六萬餘圓の

▲何れも增進 を示し殊に本年初めて鐵及び軟鋼一千五百四十三萬餘圓の移出額を算せるは特筆に價すべく各品狀況左の如し

▲輸移出重要品前年比較

品名	大正七年	大正六年
米	六一、五四一、六五一	二七、四一六、五〇八
小麥	九一四、一八八	一、四〇八、二四六
大豆	九、五〇七、八八二	九、三七〇、九〇〇
其他の豆類	二、二三〇、三六八	八三一、九四二
鮮乾魚	八、二一一、四三六	二、四二六、六〇五
人蔘	一、八五五、三八五	一、九二五、六三四
棉花	六、一四一、〇八八	四、二四六、七八六
繭	四、六八七、九六六	三、一五四、三六二
金鑛及汰金	一、六八三、七三二	七八五、一八六
鐵鑛	一、一五五、八〇六	四一五、一〇九
重石鑛	二、四一三、四一〇	二、〇八六、一一五
黑鉛	一、二六四、四八三	一、五二六、一三三
鐵及軟鋼	一五、四三一、六七五	…
含金銀粗銅	三、八六八、二七四	五、一六〇、九一三
石炭	五七九、六四一	四七三、〇三二
銅塊及錠	三、八八七、七六〇	三、〇六八、四〇二
牛皮	一、二六八、二四七	二、〇一九、七八一
皮革製品	三八〇、七六二	一、三八八、〇三一
鹽革	二、七〇六、九五一	九一〇、三五九
生牛	二、三七七、八〇八	一、〇一一、九八五
海苔	一、三七八、九六〇	七〇八、五九一
肥料	一、八六三、七二二	一、四〇七、〇五八
其他諸品	一八、九三七、九五二	一二、〇三三、六八九
陸接國境輸出品	一、七一二、四六八	一、一八七、五八六
合計	一五五、九〇一、六一六	八四、九六二、九七三

◎通信收入好調 累計豫算超過八十萬圓

昨年十一月分通信事業收入は四十萬四千七十一圓にして豫算に比し十萬二千六百七圓（三割四分）を超過し前年度同月分の收入に比すれば八萬千三百二圓（二割五分）を增收せり又十一月迄の收入累計は三百四十七萬八千二百五十圓にして豫算を超過すること七十四萬七百四十二圓（二割七分）前年度同期の收入に比し五十八萬四千百十八圓（二割）の增收となれり

◎金建か金銀兩建か 滿洲財界の問題 中央政府に移る

大連を中心とする滿洲各地の錢鈔市場及び重要物產取引所にては最近金建取引開始の機運大いに促進し來る模樣なるがその間の推移事情を聞くに

▲銀資の缺乏 休戰の結果倫敦銀塊の暴落は大連市場に於ける銀價の急落を誘致し錢鈔市場に於ける買方の買ひ退き頻出の結果客臘の大連市場は一混亂を誘致したるが結局大連市場の銀價と支那各地市場の銀價とは權衡を失ふに至り大連市場は大下落に落ちしたる現物の他市場に流出するもの愈々增加せしより若し以上の勢ひを以てせば漸次現銀取引の阨に會ふべき恐れありしために大連の銀行中には急遽銀券の回收方針をとり橫濱正金銀行大連支店にては銀券の新放出を手控ふると同時に更に對日歩の引上を策せしかば銀資金の市場に於ける缺乏は歲末に至り需要の增加と共に甚だしきものあり殊に支那商人の苦衷は尋常ならざりき

▲金建論優勢 茲に於て多年の問題たる錢鈔重要物產兩取引所の變動多き銀建を金建たらしむべし少なくも金建を加へ金銀兩建となすべしとの意見は漸次に勢ひを加ふるに至り殊に長春の如きは夙くも昨年十二月重要物產取引所の取引を金銀兩建とし錢鈔市場に於ても金對留並に銀相場を出せしがかく既に金建取引を可とする議論の愈々旺盛を來せるより

▲關東都督府にても 府議金建て採用に決せしもの如く問題は既に都督府の手を放れて中央政府に移り拓殖局の一斷を待つに至れり然も大連取引所に於ける金建の採用は滿洲各地に及ぶべく乃ち滿洲各取引所に於ける金建の開始は避け難き實情にある如し唯當分は急激の變化を避くるため金銀兩建制を維持し時機を見て金建のみに改むるに非ずやとの觀測は有力筋に行はれつゝあり

▲鮮銀の態度 此間金建採用說を促進するため金建論者の最大勢力たる朝鮮銀行が暗中飛躍を試みつゝありとの說も滿洲財界の一部に唱へられ居れるやに聞くが鮮銀は自重して何等小刀細工を弄し居らず萬事を大勢の歸趨に一任し居れりと

◎群山阪神航路 南浦中村組の企劃

鎭南浦中村組にては西鮮沿岸と阪神航路を開始すべき計畫あり近く汽船の手筈なるが就航船は九百噸級船三隻とし主として群山阪神間に於ける米穀積取りに從ふべしと

◎漢銀店長會議

漢城銀行にては六日より七日に亘り本店樓上に各支配人會議を開き各種事務の打合せを行ひたるが本店よりは韓專務石支配人其他の幹部等出席したり

◎女子高師試驗

來る四月入學せしむべき東京女子高等師範學校生徒入學試驗は各府縣に於て夫々施行せられつゝあるが朝鮮に在住する受驗者に對しては一月九日、十日、十一日の三日に亘り京城高等女學校に於て毎日午前九時より午後三時迄國語理科數學の三科目に就き施行のことゝなれるが受驗者の出身學校及其氏名左の如し

京城高等女學校岩橋禮子▲平壤高等女學校渡邊瓊▲同松尾操▲同本田鈴文▲大分矢谷すゑ

人事消息

▲奧田邇造氏（代議士）八日朝入城朝鮮ホテルへ ▲長野渡次郞氏（三井社員）八日朝入城天眞樓へ ▲近藤佐五郞氏（古書畫美術品商）同上 ▲中野太三郞氏（大邱府尹）七日夜入城不知火へ

□哈爾賓より 聽雨

哈市にては齊多の我軍將校を見受け申候（一月五日）

吉林即事

樹皮一轉の厩尻松花江凍てよ

屠蘇酌みに來し人にチタの除夜煖よ

八面鋒

◆ヴエルサイユに於ける講和會議の膳立は既に着々として進捗しつゝあり、十三日より豫備會議開かれんとするも、獨逸の形勢は依然として混沌たり。露國過激派軍は獨逸に向つて前進し、伯林にては侵入せんとする波蘭軍を邀擊せんとし、波軍又伯林を占領せんとして突進す、時局は益々重大となれり。今の處聯合國は交渉すべき相手方を有せず、確實なる返答を得べき相手方も爲きの觀あり、講和會議に入るの前、先づ以て本問題を討議せざるべからず。

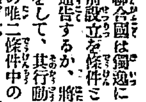
◆今日の處聯合國は獨逸に對し、堅固なる政府設立を條件として、休戰延期を通告するか、將又フオッシュ將軍をして、其行動を繼續せしむるかの唯二條件中の一あるのみ。若し夫獨逸にして、故意に遲延せしめんとせば、最早最後の一策あるのみ、講和會議の成立如何は、唯獨逸の形勢に存す。

◆ルーズベルト氏逝去の報あり、聊か突然にして洵に遺憾に堪へざる也。吾人は昨年十一月五日に行はれたる、米國上院議員三分の一改選及び下院總選擧に於て、兩院共レパブリカン黨の勝利を見たり。米國を提げて大戰の渦中に投じ、名聲を一身に背負ひたる現大統領ウイルソン氏を支持すべき、デモクラット黨の破れたるは、洵に注意すべき問題として、頗る興味を以て觀たると共に、レパブリカン黨の牛耳を執れるルーズベルト氏が、捲土重來を窃に期したりき、然るに今日突如其計に接す、嗚呼。

◆女優須磨子死して、世の好事家騷客をして賑はしむ、彼女も亦一代の人氣者なる哉。彼女が果して死所を得たるものか、抱月去つて孤獨に悶死せしか、吾人其何れかを知らずと雖も、一蓮托生を願ひし處は矢張り郞的也、大正の比翼塚は面白し。

＝新年と新東株＝
新東現株買聯合團 團員募集
■講和會議の進展は財界殷盛の端緒を招徠し瑞祥紫雲の棚曳ける戰捷第一次の陽春は生氣更に新にして株式市場黃金相場の發露を促すべし、茲に新東現株の大爆發を目標とし空前の大快舉を試みて諸君と共に福利を頒たんとす、其時宜好適の上策たるは勿論なれば冀くば千載一遇の機會を逸せず速に參加せられんことを
■申込期間 大正八年一月廿日迄 ▼加入金一口金五百圓
（但し公債并に一流會社社債又は東京株式取引所建株は代用差支なし）
東京市日本橋區小網町三丁目十番地
合名會社武藏屋株式店內
新東現株買聯合團
電話浪花（特長）四五一、四五六、四五七、四五八 振替口座東京四三二五五七番
會則內容說明書は申込次第無料贈呈

婦人日常の手引 家庭顧問
新年倍大號 一本號に限り 定價金貳拾五錢 郵稅金四錢 出來
寫眞口繪
▼閑院宮のお正月（佐鹿卿遺）▼新しき女の尊ぶ理由（新渡戶博士）▼平和後の婦人（長瀬ドクトル）▼家庭は子供を本位に（長井博士）▼人格と儀容（下田次郎）▼婦人の覺悟（鳩山春子）▼新しい春を迎へて（跡見花蹊）▲主婦の資格（吉岡彌生）▼皮膚と其の影響（古宇田學士）▼新年を迎へて（山脇房子）▼羊とお伽噺（巖谷小波）▼慰藉な實例（羽太ドクトル）▼虚榮を去つて（目賀田夫人）▼クリームの拵へ方▼化粧と婦人（伊藤貞勝）▼婦人美の研究（河島學士）▼私の好な美人（岡田八千代）▼正月の家事（櫻田節調）▼調和した身裝（鈴木吟子）
▼化粧調査會顧問及賛助員▼新年家庭のお化粧▼新年晴れのお化粧▼晴れ衣裳の着附▼丸髷の結ひ上げ方
化粧の研究 （イ）年始頃の化粧……（ロ）新年晴れの化粧法……（ハ）新年晴衣の着附……（ニ）新年家居の化粧法……（ホ）新姓で顔の一部が目立つ……（ヘ）化粧の保護……（ト）顔を引立てる生際と額……（チ）姿と衣服と帶と……（リ）丸髷の結ひ上げ方……（ヌ）正式家庭化粧要覽
▼家庭とピアノ（久野久子）▼寫眞の撮り方（齊藤不二子）▼衣裳の整理（河口愛子）▼安價の滋養の食料品（中村榮代）▼正月の座敷飾り（大淀一惠）▼新年の生花（尾崎信子）▼米國の歌留多會の馳走（赤堀峯吉）▼正月の料理（秋穂益實）▼しのばずハツか（大網すみ子）▼正月の菓子▼婦人評論▼門松かざり▼正月の祝ひ植物▼婦人と化粧の時間▼折紙細工▼家庭衛生▼家庭問答…
小說 ▼小說「折笹」……小島孤舟新作 ▲小說さし繪「かされ妻」……北島春石新作
落語 ▼出世落語「茶金」……櫻家小さん口演
發行所 東京市麴町區內幸町一丁目六番地（振替東京四二九四九番）化粧調查會 電話新橋三六一四



新案 製繩機
販路擴張の爲二年間同機附屬品提供
割拂特價
特約店急募 取引價は他店より二割安急御申込あれ
營業案內送呈
大阪大正橋西詰 帝農商會

謹賀新年
雲井染御紋附地
外村市郎兵衛
京都四條烏丸東

開業廣告
一月八日ヨリ開業
一般銀行業務ヲ取扱申候也
京城府南大門通四丁目六拾九番地
株式會社韓一銀行南大門支店
電話四三二一番

大正七年七月一日改正現行

○特使の宮御參內

不日更めて御報告の爲參內あるべし

東伏見宮依仁親王殿下には七日午後一時五十分南鄕御附武官を隨へ御參內 天皇陛下に御對顏あらせられ滯英中の諸物語り言上あり後御退出遊ばされたり尚不日更めて御參內御任務御終了に就き詳細御報告あらせらるゝやに承はる（東京特電）

▽眞に御勇氣もて……

戰亂の歐洲に御使命を終らる

御旅行日時百四日御行程三萬六千哩

御附武官 南鄕海軍大佐談

長途の御旅行御恙なく七日御歸朝遊ばされたる東伏見宮依仁親王殿下御附武官南鄕大佐は謹んで殿下今回の御使命に就て語る『殿下今回の御旅行は日數百四日御行程三萬六千哩にして御出發當時大西洋上の航海は危險云はん方なく自分の推測にても約五隻の敵潜水艇は洋上にありしもの如く此時ハリファックス港を距る五十哩の沖合に於て日本汽船麒麟丸が敵艇に追跡せられたる次第をも傳へられたり又陸上に於ては佛蘭西戰場には地雷火を始め許多の危險物あり斯の如き中に英佛白の各元首と御對面遊ばされ又戰線の主腦たる列國の將軍にも御對面ありヴエルダン要塞を御訪問ありし際の如き敵の砲彈は盛に落下しつゝある裡にて敵軍の塹壕も觀得らるゝ地點に迄進ませられたり尚殿下歐洲御滯在中は流行性感冒猖獗を極め日々數萬の死者を出しつゝありし折柄にて殿下の御勇氣と御精勵は吾々も恐懼に堪へざりし所なり』と（東京特電）

○噫ルーズベルト氏

逝去と丈の電報は來ました

何だか嘘の樣で……

米國領事館にてカーチス氏語る

米國前々大統領ルーズベルト氏の逝去の報を齎して貞洞の米國領事館を訪へば領事アルエッ、カーチス氏は愁然として語る『ルーズベルト氏の逝去は今朝營紙によつて初めて承知しましたので東京の大使館に照會しようと思つて居た處へ目下東京へ出張中の當地總領事ベーヤーホール氏から「ルーズベルト氏逝去す詳細本國へ照會中」と云ふ電報が到着しましたので愈逝去されたものと思ひますそれ迄は何だか嘘の樣に思つて居ました何れ委しい報知が本國から有りませう それ迄は何も語る事が出來ません』

▽平民主義の人

＝日本の爲に盡力してくれた＝

久水外事課長談

更に總督府に逝去せるルーズベルト氏と面晤せる事のある久水外事課長を訪うて逸話を聞くに『何につ、ルーズベルト氏が逝去した何病で死んだのだらう？格別最近病氣だつたと云ふ事を聞かなかつたよ而し外人の死は十中の六七迄は

◇腦溢血 で倒れるのが例であるから氏も多分ソレで逝つたかナ宅に角惜しい事をしたものだ氏と面晤したのは明治四十年の春恰度小村大使が日露役の平和會議で渡米の前だつた吾輩が觀察の要務を帶びて華盛頓に行つた時の事だルーズベルト氏は吾輩を邸宅に招いて種々と日本の事に就きて語つたソウして自ら

◇燐寸を 摺つて吾輩に莨を勸めた此一事を以て飽く迄も平民主義の人だと感じた氏の言ふが如く日本の爲めには確かに盡した人だソレは彼の日露役に際して講和を促進せしめたのも氏で平和會議を華盛頓で開かしめたのも氏であるソウして日本に勝利の旗を擧げさしめたのも氏であつた』

▽死因

米國前大統領ルーズベルト氏は炎症性リューマチスにて一月一日に羅病したるものなり（ルーター電報）

○立山の馬賊

我附屬地附近を荒す

五日午後六時頃四名の馬賊鐵道沿線立山の支那市街二道街菓子商利生長方を襲ひ短銃を突き付て家人を脅迫し金品三百餘圓を强奪し更に隣家なる一流の支那料理店西海興に赴き那貨四百餘圓奉天票百七十圓を掠奪し悠々立山假市街方面に引揚の途中更に支那一紳士の買物中を脅迫して金品を强奪逃亡せるが届出に接するや鞍山警務署員は直に非常線を張り嫌疑者一名を捕縛目下嚴重審問中なりと（鞍山）

○石田氏休職

ウ教授射殺者

長崎醫學專門學校教授にして文部省留學生たる石田昇氏は滯米中ドクトル、ウォルフ氏を短銃にて射殺したるが七日附休職となりたり（東京特電）

○劍光旭旗に輝く

龍山原頭の觀兵式

壯觀言語に絕す!!!

四溫に明けた八日は朝まだきより雨雲低う垂れ、午前八時頃には小雨さへ降り出でたるも暫くにして歇み龍山練兵場を繞るポプラ林の上あたりにはところ〴〵青い空の肌が見えた、此の日午前九時五十分龍山練兵場にては陸軍始め觀兵式が行れた、午前十時諸兵指揮官高島中將の颯爽たる

★馬上姿が 練兵場の北入口から一直線に場の中央を横ぎり西面して定位置に就くと、步兵第七十八聯隊及び第七十九聯隊は相並むで西面の閲兵隊形を作り、

◇龍山の陸軍觀兵式◇

次いで機關銃隊の一箇中隊、朝鮮步兵の一箇中隊、騎兵第二十七聯隊、野砲兵第二十五聯隊の各一箇中隊は北面の閲兵隊形を作つた、――と西面步兵隊形の一角から

★嚠喨たる 『海行かば』の喇叭のリズムが潮のやうに起つて幕僚を隨へた閲兵官宇都宮中將の姿が第七十八聯隊の先頭に現はれ逐次に閲兵が終つて十時五十分件の隊形は更に分列の隊形に變化した、西面した宇都宮司令官の後方から此れを望むでゐると唯もう劍光と

★カーキ色 の波が『頭左―』の號令の斷れ〴〵にサク〳〵と統一ある音を立てて涙ぐましい許り一種のサブライムを感ぜしめた、斯くて午前十一時二十分榮光輝く大正八年陸軍始め觀兵式は無事終了した、因に今年は長谷川總督は喪中で臨場せず一般陪觀者も非常に少かつた

▽平壤の觀兵式

步兵第七十七聯隊にては八日午前十時より恒例觀兵式を行ひたり七日來天候不良道路險惡なるも寒氣稍和ぎたり各部隊は午前八時より第一大隊を先頭に隊伍整々營門を出で、練兵場に集合午前十時谷村聯隊長指揮の下に軍旗に對する敬禮を行ひ夫れより井戶川旅團長の閲兵あり終つて分列式を行ひ十時四十分無事式を終へたり因に當日平壤憲兵隊兵器製造所在鄕軍人會其他平壤官民有志の陪觀あり頗る盛況を極めたり（平壤特電）

○鮮人勞働者

六十八名製鐵所を解傭され

既に十名歸國の途につく

兵庫縣尼崎市岸本製鐵所は過般の休戰條約の成立の影響を蒙り事業の緊縮策を執りし結果職工の一部二百六十餘名を舊臘下旬に

▼解雇 したるが其中朝鮮人六十八名の職工も亦解雇せられたり而して右解雇の鮮人職工には夫々慰勞金及歸國旅費を支給し內地在住の希望者には就職の道を講じ呉れたるに依り各自さしたる困難を感ぜざりし者の如く既に十名は

▼歸國 の途に就きたりと清野兵庫縣知事より警務總長に宛て、右の旨通達ありたり

○可愛い子は山へ（二）

登山に必要なる準備

文學士 大町桂月氏談

登山者には先づ登山の希望、其山に對する智識、登山の勇氣此三つが必要である、勇氣と云つても忍耐力のある眞個の勇氣が必要である、出立の際は非常な意氣込であるがだん〴〵と進むに伴れて次第に弱つて遂には死太張つて仕舞ふ樣では不可ない。富士山で時々山醉をする人がある、生理學的の說明は判らぬが

▽强力の話 に依ると斯う云ふ人に限つて何でも早く絕頂へ〳〵と上許り見てキョロ〳〵して居るからださうだ。だから焦慮つては駄目だ、尤も肚の裡では大いに上を望むのも善いが目は始終足元を見るべきである、私が斯んなに支那服を著て居るとでつぷり肥て見ゑるかも知らぬが、裸になつたならば實に貧弱な肉付で足の力も何もありはしない、けれども私は人の登る位な山は自分も必ず登り得ると云ふ

▽自信を持 つて居る。夫は疲れ切らない前に休むからである。未だ左程草臥れもしないと思ふ時分に一寸腰を卸して莨を飲むなり振返つて過ぎ來し方の景色を眺めるなりした上更に進む、又餘り疲れぬ前に休息する、斯したならば決して弱らない、山醉ひしない。其代り時間は少し多く要するかも知らぬが深山幽谷の中を何日間も進むが如き場合は此方法でないと迚も不可ない。是は

▽世の中の ことに就て考へても全く其通りである、急ぐのが絕對に惡いとは申さぬが順序を經て進まないと得て失敗を招き易いものである。茲に陸軍少尉があるとする、理想は大將にあるが身は現在少尉のとこまあ中尉か大尉の邀を見て、ゆつくり而も確實にと云ふ風にして進むべきである夫れから又山も山に依つて色々ある、餘り人の登つたことのない山、樹木の繁つた山、險しい山、霧の深い山もあるが、總て其

▽歸り途を 考へ〳〵進んだならば失敗はない、濃霧に覆はれて二進も三進も出來なくなつた折或は斷崖絕壁に行き詰つた折でも引返すことが出來る。時々新聞に出る山の遭難者、是等の連中が不幸な破目に陷るのは大概歸り路を失ふからである。私も今日でこそ斯巧振つた事を申し上げるが實は度々失敗した經驗もあるのだ。二十年許り前越中の立山に登つた、多くの人は案內を連れるのだが私は軍用金の關係もあつて一人で行かうと決心した。

丸髷に結つた（最近）須磨子＝と伊原青々園氏に宛てた遺書

○十日間漂流した上海賊に慘殺さる

上海沖の無人島に漂着して

第二榮吉丸の船員

八名の中一名は賊の隙を窺ひ約一哩を游泳して虎口を逃る

釜山青島間を往復する荷物船第二榮吉丸（百三十五噸）は船長廣島縣豐田郡生れ田中孫一（四二）水夫長德島縣板野郡生れ佐藤丈吉（三三）及び愛媛縣越智郡生れ山村矢野佐一（二九）同吉田孝一（三〇）福岡縣遠賀郡小石村藤原眞五郎（二二）愛媛縣越智郡渦浦村白石政一（三〇）同矢野一義（二〇）同村鹽見好吉（三〇）の八名乘組み十二月十五日鹽百九十噸白米七百斤鷄卵一萬個莨五百斤を積載して青島を出帆釜山に向け航行の途中同十六日夜青島を距る百六十哩の沖合にて東暴風に遭遇し十日間を空しく海上に漂流したる後上海の沖合なる無人島に漂着したるが同時に海賊三十名の一團に襲はれ賊船中に拘禁されたり三十日朝に至り賊は船長以下船員を一人〳〵甲板上に引き出し斧又は青龍刀、鉈等にて殘酷にも嬲り殺しに殺したるが八名の中鹽見好吉のみは賊共の隙を窺ひ海中に飛込み水底を潜ること約一哩辛くも虎口を遁れて漂上漂流中支那漁船に救はれ本月七日大連汽船濟通丸にて大連埠頭に上陸せり（大連特電）

○ウフアよ 陷落したか

歐露に於て暴虐な過激派の手から救はれてゐる所は此處許りだつた

北は勝ち、南は敗けて……

從軍記者 金谷眞

ウラルの西方ウフアの街は最近過激派の手に歸した――本月三日浦鹽のチェック軍司令部發表の電報の通り――ウラルは過激派と反過激派爭奪地と化しつゝある、ウフア市はそも什麼處か、それを說く前に先づウラルの戰況を語らねばならぬウラルは今チェック軍を始め少數の英佛、露兵が前進してゐるが唯その總司令官がチェックのスイロウウイ少將で、北方エカテリンブルグ方面がガイダ少將の指揮下にあるばかり戰線に出る者は何れも反過激派の西伯利軍である、然るに北方の戰線は昨年末にガイダ少將の

▼常勝軍が ウラルを越ゑて歐露のペルムを占領したるに拘はらず南方チェリヤビンスク方面は目下敵の過激派軍に喰ひ込まれてゐる。何故と云へば北は味方が勝ち南は敵が勝つたのである、試みに地圖を披げば南方ウフアのチェリヤビンスクに於ける陽部と北方のエカテリンブルグに對する陽部との關係が如何にもよく類似してゐる、兩地共にヴォルガ河の上流に臨み立架兵がヴォルガを溯つてウーファの兩地に陸揚げされる、ウフアはチェリヤビンスクからウラルが越ゑて第一番目の都會である、街は小高き

▼山の上に あつて下には（ヴ）鴨綠江より巨きいベーラヤ河

◇雪のウフア◇

（ヴォルガの上流）が天に連なつて流れてゐる、記者が此の街に入つたのは十一月の二十七日の朝であつた、停車場で朝鮮東亞貿の金甲印の莨を見た時は舊知に逢ふやうな喜びを感じたのであつた、隣には巨きな圓い石油のタンクがあつて停車場には佛蘭西の國旗が寒風に飜つてゐた、恰度その時は無線電信で獨逸の屈服が報じられたので佛兵の意氣は頗る軒昂、プラットフォームではヴイヴ、フランセーで大騷ぎであつた、記者は歐露の

▼白虎隊 とも云ふべきカツペル將軍と共に此處から更らに前進して遙かにシンビリスク方面の敵中に突入したのであつた、然るに此處からサマラとシンビリスク方面に破れる、北の歐敵は最早ウフアを距る十數里のセルスク及びベリベイに迫つてゐた、當時ウフアの市民が胸を撫でおろして司令官オイナエホスキー將軍が山上の市街に司令部を置いたからである――當地の停車場の列車、陸に續く塔のあるうば停車場の――而してまた政治上から云へば唯一の露國政府の本部があつたオムスクの西北都に政府が合同して更らにコルチャツクがのあつた

▽全露政府 は此處にあつた、反過激派の人達は歐露に於て暴虐な過激派の手から救はれてゐる街は此處ばかりだと云つてゐたがそれすら最早や奪はれて了つたそれにしても記者が親しく從軍したカツペル將軍の孤軍は何うなつたであらう、雪のヴォルガ平野に

雨と飛ぶ榴散彈の下 に晩餐を招いてくれたカッペル將軍、またその下にあつて記者を見送つてくれた文豪トルストイ伯の孫イリヤ、イリーシ

▼トルストイ は何うしたであらう、ツイマダ驛の後方危く過激派の手に捕虜となりかけた記者にとつてはウフアの陷落が他人事と思はれぬ氣がする

○須磨子

＝の葬儀 會葬一千名

松井須磨子の葬儀は七日午後三時半青山齋場にて總て故島村抱月氏葬儀に準じ新派眞言宗豐山派管長甲川快克師導師の下に執行され文壇藝壇の名士一千餘名の會葬者あり向小村欣一侯、中村歌右衛門、森律子其他の吊辭ありたり（東京特電）

▽藝術座は解散か

遺產の幾分は座員にも頒つ

秋田雨雀氏談

須磨子を喪つた藝術座の將來に關し幹部秋田雨雀氏は語る自分一個の考えとしては藝術座も共に解散の外はなからう、座員の身の上に就ては吾々幹部に於て充分奔走して相當な途をつけてやりたい須磨子の遺產は約二萬圓であるが此內幾部分は座員にも分與すべきであらう養女の小林かつ子は實姪で今一人の若葉とは血緣はないが共に遺言により相當に遣るものはやつて實家へ歸らす積りである（東京）

▽藝術座の破滅

長田秀雄氏の談

自分は一身上の關係から藝術座の脚本部と殆く出入を避けて居たので自殺の眞因など少しも判らないが然し抱月氏の死後彼女の身として幾の事實に遭遇し思ひ餘り思ひ迫つての自殺と云ふ事だけは想像される抱月氏の死に依つて動搖し初めた藝術座の存在性は須磨子の死に依つて根本的に無くなつたので之れで何も彼も片づいたと同時に新劇の現在及將來に考へ及ぶと多少の心細さを感ぜぬでもない（東京）

○幼兒の窒息

原籍島根縣鹿足郡朝倉村大字籠町五十三番地平民門前貞一妻ひで（三二）は目下平壤鐵道旅館に勤め居れるが去月二十六日長女みつゑ（大正七年十二月二十日生）を炬燵に臥かし頭から蒲團を被せて外出したるにしづゑは何時の間にか顏色蒼白となり絕息し居たるより大いに驚き直に醫師を迎へて手當したるも遂に蘇生せず泣く〳〵平壤署の檢視を受けたりと（平壤）

灯ともし頃

ハバロフスク占領の勇士騎兵第十二聯隊の川名大尉の賀狀に曰く『雷は氷の中にとざされて頸へながらも元氣旺盛』と註に曰く雷とは目下八市にある大尉自身の綽名である▲モ一つこれもブラゴエ占領の勇士騎兵第七聯隊の長瀨少尉の賀狀はハルビンから舞ひ込んで曰く『大正七年は興安嶺を越ゑたり大正八年はウラルを越ゑむ』と▲兩者共出征軍の沖天の意氣が窺はれる▲五日夜南大門通過東上した高柳少將は陸軍有數の露國通を以て聞ねてゐるがこんごの西伯利行きも大いに意義ある事と察せられる▲少將の露國觀に曰く『露西亞は復活するには他力の信心を要す』と▲これも五日京城を通過した南洋通の中井錦城先生の南北比較論に曰く▲西伯利は半年遊んで半年働くが南洋は半日遊んで半日働らく結局總勘定は同じ事だと些し誤破し得て面白い言葉である

春場所大相撲懸賞

東京大相撲春場所は十日より開場に付き好取組十番を選び勝負豫想を募集す

（藤の川（白岩	清瀨川（矢筈山（大戶平
大の里（錦洋	兩國（御西山（駒泉
黑瀨川（朝潮	千葉崎（三杉磯（大潮
大門岩（逗	柵常の花（九州山（大錦

右十組の取組なければきに認め勝力士の肩に○、引分に×、預りは△を附す可し▲勝負は總て協會發表の勝負附に據る事▲成るべく多く的中したる者より順次等級を附し賞品を呈す但し同點者多數の時は抽籤に依り十組の中勝負せる時は失れを除去して計算す▲〆切は一月十二日最終便の日附印あるもの▲宛名は京城太平町京城日報社相撲係

賞品＝△一等一人 銀側懷中時計一個△二等一人 上等反物一反△三等三人 上等置時計三個△四等十五人 上等卷煙草一ボール宛△五等三十人 福袋一個宛（當選者多數の場合は抽籤にて定む）

演藝案內

京城本町 電話五七八 壽座
正月九日より京城演藝俱樂部 第壹 喜劇左渡の金山 第貳 悲劇危機一髮 第參 社會劇親質ります 第四 喜劇或る夜の出來事

早川演藝部直營 有樂館
ラジウム礦業 馬 全二卷
大活劇 幽靈船
大名競
人情劇 黃金の夜 全五卷

本町二丁目 電話一〇五〇 壽館
京山愛三大一座開演

箱根靈驗躄の仇討 黃金館
戀の暗礁 全五卷
新派悲劇 つなぎ舟 全四卷

京城明治町 電話二六〇 浪花館

電話八七三 大正館
活劇 赤自動車怪室
舊劇 秩父大八郎
新派悲劇 薄き緣 全五卷

本町五丁目 電話三三六八 文樂座

母コウ儀豫テ病氣ノ處養生相叶ハズ去六日午後二時大分縣見郡日出町ニ於テ死去致候此段謹告仕候
男 多田順三郎
親族 矢上盛六
友人 新保次郎
友人 松本豐作
代人 和田佐一

○安東縣の工業

▲遼記繰絲製線工場は機械六百臺一日の原料所要量三十五萬二千粒一日製絲量百六十七斤餘、挽手出來高百三十四斤、製絲出來高三千二百五十斤

▲華安公司工場機械三百臺、一日の原料所要量三十三萬粒、一日の製絲量百五十七斤、挽手出來高百

▲復盛繅絲廠は機械百二十臺、一日原料消費高十三萬二千粒、一日製絲量六十二斤、挽手出來高五

▲同聚泰絲廠は機械數七百臺、一日の原料消費量七十七萬粒、一日の製絲量三百六十六斤餘、挽手出來

仁川期米

▲八月後場 大阪商況なりしも前場の好況に八十四錢と崩れ五十八錢と打止めたり

後場當限二〇三十三圓六十五錢 ▲中限二〇三十三圓十五錢二十五錢

仁川米豆取引所 八日の三月限 天 少 雨 ▲一月九日

●東京株式は機械敷三百二十萬… 一日の出來高三十五萬…
紡績百五十七斤、挽手出來高…
原料繭消費高三十三萬…

京城日報主催 氷上滑走大會

會場漢江人道橋下、期日詳細追而發表

國防と道路

米國 サミユール、ヒル氏談

凡そ國防は之を内部からと外部からとの二樣に觀察することが出來る。故に單に國防といふも其見方によりては自から二種の相違がある。而も此の國防の中で最も大切なのは、内部より來るものである。即ち實業家や國家領袖や其他有らゆる社會の人が他國人よりも優秀であることいふことになるのである。或る人が或る仕事をするのに金が無いので困るといつたら、或る人は之れに答へて其は金錢資本よりも人の價格が第一の資本であると云つたさうだが、眞に此は至言であると思ふ。然り故に、强ち金錢のみが資本では無い。眞正なる國民教育は即ち國家の資本である。資本は人物に在る。何れにしても人物本位でなければならぬ。次に外部から來る國防を考究すると、其第一の國防は運輸である。運輸は即ち海運のみならず鐵道及道路に依り行はるゝものである。されば此より海運道路鐵道に就て比較研究して見ようと思ふ。凡そ開闢以來羅馬でもあらうが、ソクラテスであらうが、孔子であらうが、此等が如何に偉人と雖も、此運搬の利益を受けないものはない。又た英國がウエールスやスコットランドを征服しアイスランドを征服したのも、良好なる道路があつたが爲めである。又羅馬が何故あの如き勢力があつたかといふに、矢張り其れは道路に在るのである。乃ち如何なる國でも戰爭に勝を占むるに至ることは運輸の便の良かつたこいふことが原因である。彼の亞米利加に於ける八百六十五年の内亂に北部が勝利を占めたといふのは、北部に河川道路の便がよく、從つて運輸上好都合であつたからである。又何れの國でも道路の改良を爲して其の國の榮わないものは無い。故に貴下の國に於ても、此の國家の隆昌を圖らんとならば須らく道路の改繕を爲さなければならない。現に日本が强大を致すやうになつたのも、鐵道が敷設され海運の便が開けるやうになつてからである。國民の富は運輸の便が開けるに從つて何百倍何千倍となるのである。即ち道路がなければ國防上其完全を期すことが出來ぬといふのは、恰も人體に手足がなければ不可ぬと同じことである。日本は風致豐に山水の美に富む國である然し此の美しい景色を、此が四分の一を見た人は誠に少いことだらうと思ふ。さらば如何にしたならば此の景色を充分見ることを得るやうに出來るであらうか。是れ完全なる道路の開通といふことで無くして何んであらう。更に進んで考究すると、日本は冬になると米麥薪炭其他の物資が高値をいたすといふことであるが、其れは多くは積雪等の爲めに運輸が不便になるといふ理由からも起つて來てるるのではないか。如何なる大軍を動かすこいふことも物資の供給こいふことも皆此の運輸を以て其の目的を達することが出來るのである。又道路改築によつて其の近遠は築わる。田舍の産物は安く之れを京城府に出すことが出來る。道路の議論は國防の上に――否國家の上に人類生活上に――其の關係の密接にして、一日も此れが問題を等閑に付すべからざることは以上述べしが如くである（東京支局）

★石炭の郷土より

啓上…撫順にて…老禿生

◆今年こ採炭

近來鮮滿各地共に燃料不足石炭缺乏の聲は漸次擴大し來り滿洲本線中或る箇所の如きは既に一塊の石炭さへなく殆ご閉口の有樣に有之候が、今石炭の本場たる撫順に來り候へば其の採掘作業の盛んなるには一驚を吃し申候、殊に冬期に於ける炭山の作業の旺盛なる一段の差を認め申候

◆苦力避寒地

撫順は苦力の避寒地にして而も救濟地にて有之候、陽春四月解氷建築土工の期に入れば直ちに山東より直隷より將た亦滿洲各地より蟻の巢を出づるが如く續々として建築土工地差して蝟集し來りたる苦力は結氷の期に入れば直ちに方向を變換し避寒避饑越年の目的を以て撫順を目懸けて入り込み其爲め冬期の炭坑作業の旺盛なる無理からぬ事從つて貯炭も相當に有之候

◆特産と鈍合

滿洲各地こも特産物の出廻り期に際し居候へば滿鐵こしては强ち利益打算よりにはあらざるべけれご長春開原方面の特産物輸送に忙殺され石炭輸送に對する貨車繰り緩漫となり到底撫順の石炭搬出は困難の由に御座候殊に本年は各地こも夏期の水害にて約十日間搬出を止められたる上彼の軍隊輸送なごありて益々搬出困難となり滿鐵沿線の滯貨夥しき爲目下滯貨に日も是れ足らざる現狀なれば石炭輸送は愈困難の極にあるもの、如くに候

◆三百餘萬噸

故に明年度より炭礦に於ても成可く夏期閑散の折に十分採掘し以て各地に相當の貯炭をなさしむべく其の爲め苦力の數を增加し貨車線を圓滑ならしむべく諸計畫を樹て居る由に有之候が今年中の採炭豫定額は正に三百萬噸に上り居る由にて候、兎も角に滿洲各地共土地柄とは云へ概ね燃料に乏しく且つ寒氣峻烈なれば唯一の採暖原料たる石炭の採掘並に輸送及び其の價格等は今一層の擴大と敏速と廉價とを祟まずんばあらず候

◆銀行の創立

（餘つて市中の狀況を見るに地方經濟の發展を計り金融上の圓滑と敏速とを期し且つ地方財界の基礎を鞏固にするの目的を以て有志者間に銀行創立の議漸く進捗し早くは今年一二月頃には創立總會を開催せん勢ひに御座候、老禿生は本計畫に對しては多少の容喙なきにしもあらざれど兎も角に計畫されたる以上は是が完成を望み、完成創立の上は健全なる發展を希はずんばあらず候、徒らに金融機關を創立し確信なき運用をなさんか地方財界を紊亂し經濟の發展を阻害するや多言を要せざる處と存じ候、幸ひに自重健實なる進展を祈る次第にて候

救世軍の學校で教養されつゝある鮮人の少年乞食（八日朝刊第三面參照）

○夫婦喧嘩の仲に這入った許で火を放けらる

淺猿き女の一念

元山幸町理髮店堀床こと堀守一郎にては大晦日の徹夜に家内中疲れ果て元旦を終日寢て暮し主が午後八時頃便所に赴きたる折しも便所の傍にてパチ〳〵と異樣の音するにぞ怪しと見るに石油を注げる炭俵の其處にありて今しも火焰は附近の炭俵に燃移らんとするに打ち驚き腰を拔かさん許りに家内の者共を呼び起し漸くの事に打ち消したるが此放火こそ下の如き忌はしき原因ありと堀床と同町内に大莊寺某こて洋服商を營める男あり昨年の夏頃より其妻はるには慕も差し迫りて離緣沙汰さへ持ち上り前記堀床の主は兩人の間に仲裁して手切金を出して離緣の沙汰となりたるが女心の一念に堀床こそ自分等夫婦の仲を割きたる者なりと思ひ詰め扨てこそ元旦を期して放火を企てたるものなるが、其犯人たる事の直ちに露見せしは前記炭俵の中には羅紗の斷ち屑並にはるに宛てたる内地よりの惡面其他大莊寺方への勘定書さへありて的つ切り何人の所爲なる事判明し同夜元山署の手に拘引されたるものなりとさ。こは女心の淺墓さと云ふ可し（元山）

○古來善美の意義を表徵せる羊の話

美肴美酒美具美衣の代名詞（下）

而して支那の陝西省河東地方よりはヤギの良きものが出るし藥としては支那でも朝鮮でも綿羊よりヤギの方を貴び食用こするには

◇◇山羊の肉は臭氣あり◇◇

綿羊の肉の美味

なるに比すべくもなし夫等より見て前出爾雅の說はあれご兎も角羊をヤギのこと、するのが至當であると思ふ但日本では山羊の字が通用されて居る誰もあやしまない却つて羖羊など書きては解する人一人もなきゆゑやはり山羊と書くより仕方がない殊に支那の方も段々日本の新語（新熟字）が入り込むで盛んに用ひられて來たことであれば今後はヤギのことも山羊と書くことになるに相違ない

歐米諸外國では

羊の長幼牝牡きんきりなごに付き細き稱呼がある支那でも字には色々の區別がある今其二三を擧ぐれば牡羊を羝と云ふ羝は抵觸の抵から來て居る元來抵の字は角のあるものが觸突せむとすることで頭を低うして突かゝるゆゑ抵と書くので羝は抵の省字省音にて角のある牡羊に適用したと云ふとだ。其外說文によれば羊の子を羔と云ひ五月生の羔を羜と六月生の羊を䍪と七月生の羊を奉と羊にして歲を卒へざるものゝ如く說こ曰ひ又羚は牝羊なり羖は牡羊なり』本草綱目には『牡羊曰羖曰羝牝羊曰羚曰牂黑曰羭云々又去勢曰羯羊子曰羔云々』又廣雅ニ吳羊牡一歲曰牡羝三歲曰羝其牝一歲曰牸羝三歲曰牂吳羊牾曰羯夏羊牾曰羯云々要するに

解釋區々なる上

諸書には牝牡、羚羝等の字に誤字多き故一層まぎらはしいのである字義の詮議立てはつまらぬ殊に不素餘り用ひざる字の解釋なごは何方でもよきことなれば之にて止むることにし序ながら支那の熟字或語の中で羊の性質を顯はしたやうなもの一二を擧けん、羊は性頗る怯弱のものなりよく人口に膾炙した語に羊質虎皮と云ふのがある意味は文あつて質なきを譏れるもの なり揚子法言に『或ひと曰人あり自ら孔を姓こし仲尼を字とし其の門に入り其の堂に昇り其の几に伏し其の裳を襲れば則ち仲尼と謂ふべき乎と曰其の文は是なり其の質は非なり敢て質を問ふ曰く羊質にして虎文す草を見て而して說び豺を見て而して戰く其の皮の虎たるを忘れたるなり』とあり

虎皮を被り狼を

見て戰く類は羊のみでない世間には此の類のもの頗る多し平素立派な言を吐くもいざ鎌倉となると周章狼狽する其の質非なるものは如何な虎皮にても被みきれぬものなり羊酒と云ふ熟語之は羊肉と酒とこ云ふことにて非常な美酒美肴を意味して居る史記盧綰傳に『盧綰は豐人なり高祖と同黑盧綰の父高祖の太上皇と相愛す男を生むに及び高祖盧綰と同月に生れ里中羊酒を持し兩家を賀す』云々又

羊肉は餘程美味

なるものとせられて居る莊子に羊肉蟻を慕はず蟻羊肉を慕ふ羊肉は羶なればなりと又老學菴筆記に建炎以來蘇氏の文章を尙ぶ學者翁然之れに從ふ而して蜀士最も盛んなり蘇文熟して喫せば羊肉なり蘇文生にて喫せば菜羹なりと我羊羹の語源は何れから出たか其の詳しきことは知らされども やはり菓子中の一種にて

支那又は朝鮮では

犧牲には羊を用ふる例なり夫は羊の淸淨無垢なる所より起れるものならん支那人は之に付き面白き理窟を附けて居る春秋繁露に曰く『凡そ卿が贄す羔を用ふ羔角有つて用ひず仁を好む者の如し之を執つて鳴かず之を殺して號せず義に死する者に類す羔其の母に飮む必ずや跪く禮を知る者に類す

故に羊の言たる

猶群の如し故に以て贄す』と又鄭氏婚禮謁文贊に曰く『群て黨せず跪乳儀禮あり以て贄こす吉事之れ宜しと兎に角目出度き家畜なり年の始は常に目出度しと雖も此の支に當る今歲は一層目出度しとして可なり

有するが如し一體羨、義など何れも多少其の意味を含めるもの少からず善、義、美と云ふ字も羊の下に大なれば美と云ふ字にはやさしき其の外羊に從ふ字は前の一二例にても明かであることは美しきもので美しきものの

羊車は帝王の乘

ら る、華奢の車に相違ない又魏志にも『衛玠少時乘白羊車於洛陽市市人觀之咸曰誰家璧人』と云ひ又朱遂號曰璧人』とあり羊は弱きもの故に羊車と云ふは綺麗な立派な車と云ふことだそうなが本は羊に曳かしたから出たものらしい昔晉の武帝炎を平けて後宮内甚だ多く何處に臨まるべきや自ら適く所を知られず羊車に乘りて行くがまゝにし羊車の留まつた所にて下りて宴飲された宮人は依て羊の好む竹葉を取り戶に挿し鹽汁を地に灑ぎて帝車を引き留めたと云ふ話もある又

之れこよく似た

ことが宋の文帝にもある帝は好んで羊車に乘りて諸妃の房を巡られた潘淑妃と云ふ妃は能く羊の鹽を好むことを知り每日左右に密令して鹽汁を自分の房前に灑ぎ置かせたそうすると文帝の車が其戶口に來る毎に羊は佇り地を舐て去らない文帝は其の手管を御存知なく徒らに鼻下を長くし羊すら汝の爲に徘徊す況んや人に於てをやと兎に角

一番の甘味とされ

て居るも故なきにあらざるべし

○職工を齊多に

滿鐵沙河口工場瀋陽分工場職工中約三四十名と鞍山工場に出張せる一部の職工之に加はり近く西伯利齊多に行き某工場修繕の爲めに活動すべしと聞く（鞍山）

○出初式（元山）

元山消防出初式は六日午前九時より當署構內に其式を擧げたるが、擧式と共に村地府尹の訓示あり右終るや府よりの酒肴に元氣を附け正午より市內に階梯上りを爲し午後三時よ生丸芳樓に新年宴會を催し頗る盛會裡に解散せり

餅と酒

お雜煮、お汁粉とホシ胃腸藥

正月は飲み食ひ月新春第一に胃腸を見舞ふものは吉例の雜煮餅なり、續いてお汁粉安部川餅、ヤレお鮨、ソレ何々と食慾を促して、思はず知らず食へ過し、食もたれの結果は自然消化不良に陷り溜飲、吐瀉、胃弱、胃擴張等に侵され胃腸を損ふ事多し。斯る塲合には一匙のホシ胃腸藥を用ふべしホシ胃腸藥の一匙は、よく消化作用を促進して、食もたれ、食へ過ぎ、溜飲、吐瀉、惡心、胸痞、等を治する特効あり胃腸藥中の第一品なり

お酒の惡醉宿醉とホシ胃腸藥

御祝儀の屠蘇を先づ手始めにコ、の安會カシコの廻禮と寢ても起ても酒びたり、我にもあらで盃の數を過すこと多く斯くて酒は新年第一に胃腸を樂ませ、果は惡醉、宿醉すに導きて目出度き新春を不快に過させる事尠しとせず。若し我を忘れて盃の數を重ね惡醉、宿醉等を覺えたる時は直ちにホシ胃腸藥の一匙を服用すべし。ホシ胃腸藥を服用する時は忽ちにして惡醉、宿醉の不快を去り、苦痛を除き快く新年を送ることを得べし

ホシ胃腸藥活用時

消化不良の時
食慾不進の時
飲過食過の時
腹痛吐瀉の時
胸痞への時
胸の苦しき時
胃腸カタルの時
胃擴張の時
溜飲の出る時
惡醉宿醉の時

胃病良藥

ホシ胃腸藥

資本金五百萬圓

定價 壹圓 五十錢 二十錢

各地藥店及特約店にあり

東京市京橋區南傳馬町三丁目
星製藥株式會社
振替東京… 電話京橋…

段値均平　安　高
一節 三十四圓七十五錢
二節 三十四圓五十四錢
三節 三十四圓六十九錢
四節 三十四圓五十九錢 …

報豫臺後雪
京城測候所
前日最低溫度 …

（十九日の月齡）

卅六番角力

毛谷村六助　一百八席　桃川桂玉口演　浪上義三郎速記

鶴井新十郎が片頰に笑を含んで聞いて居りまするこ、近江典膳は大言を揮つて　典『失禮ながら御子息は武藝は御執心であると承知いたしたが如何でござる　新『仰の如く武術は殊の外執心で、幼年より稽古仕り些か嗜んで居りまする　典『成る程、何と失禮だが、武藝お嗜みがあるといふなれば、斯樣な僻地……僻地と申しては甚だ無遠慮な一言だが、斯樣な處にお出になるよりは、諸國修行をなされ天下に名を揚げて、家を興し身を立てるお考へが肝要でござる、失禮ながら思召もあれば御同道いたす、拙者の門人とお成りあつて、與に諸國を御修行なされては如何でござる』新十郎驚いたのは、門人となつて一緒に歩けとは出過ぎた一言、見た處が宜い人物だが何の位出來るか、一つ腕前を試してそれからのことゝ思ひ　新『イヤ仰の趣き御尤もの次第、先生のお供を爲し諸國を修行いたし、行く〳〵は手前も身を立て天下に名前を現はさうと心得るが、何の位お出來なされるか、未だ御手並も知らず御門人になると云ふは、些と疎忽のやうに承知いたす、失禮ながら一本お手合せを願ひ、其の後御門人に加はつてお供いたしたいお立合下さる譯には相成るまいか　典『あゝ承知いたした、最と易いこと、然し御當家の御子息はお若いから御無理もないが、言葉の利きやうはお嗜みなさるが宜い、お立合い下さるかだの、お手合せだのと仰しやるは拙者は好いが、他人に對つては御遠慮ありたい、同じことなら一ッ御指南を願ひたいと、斯程仰せられたが穏かでござらう』新十郎益々落著いて、却々熟の強い人物、餘程慢心者と思ふから　新『御尤ものお言葉、甚だ失禮を申上げました、左樣なら一と手御指南を願ひまする　典『左樣ならなぞは要らん、只御指南をと仰しやるが宜い、さア〳〵庭へお立出なさい、充分に御馳走を頂いたので滿腹いたした故、幸ひ腹ッ消化に恰度宜い、一本手解きをいたすでござらう、さアお出なさい　新『有難い仕合せ』と新十郎は聽て其處へ立出ました、典膳は襷鉢卷甲斐々々しく木太刀を取つて庭先へ立出でゝ、新十郎も同じく木太刀を取つてピタリと中段に附ける、典膳は大上段に振冠つて、互にヂリ〳〵と詰寄りました、かゝる片田舍の豪家の伜、何れ旦那藝で碌なものではあるまいと侮つて居りまするが、此の新十郎といふ人、生來て武藝の達人、幼年から切瑳琢磨の功を積んで、槍劍二道名譽の人物、暫く位取りをして居る内に大喝一聲打下しましたる典膳の木太刀を、體を交してガッキと受留め、二三合打合せると手元へ飛込んで、小手を一本ピシーリ打つた、恐れ入つたと云へば最初の高言に相違するから典膳顏を顰めて　典『掠つた』とごまかして、猶も激しく打込んで參りまするから、新十郎腹の中で、此奴怪しからん奴だと、又々二打三打合せまするを、飛込んで來て肩先の邊をボーンと打つた、なれども氣丈の典膳參つたと云はず、矢庭に手許へ飛び込んで、新十郎の眞向から打ち下す新十郎は彼方に潜り此方に脱け、手許へ近寄つて利腕をハッシと打つた、堪らず木劍をポロリ其處へ取り落したから、流石執拗の典膳も一足飛び退いて　典『參つた、イヤ倍々天晴なお腕前、拙者今日少々手の工合が惡い、それが爲め見苦しき負を取つたが、今日のやうに骨の折れた試合はいたした事がござらん』と未だ高慢の鼻を高くして居る　新『エヽ先生、只今は木劍のお相手をいたしましたが、聊か槍を嗜んで居りまするが、槍術の御指南を願ひたいが如何でござる　典『オヽそれは感心だ槍を遣はつしやるか、宜しい早速御指南をいたさう、さア早々お出でなさるが宜い』と早速蒲公英附きの槍を其處へ二本取り出だしました。

◎新廢物利用法（主婦の心得）

◆殘つた御飯を◆　お櫃や釜を洗ふときに殘つてゐた御飯粒は捨てずにとつておいて、甕のやうなものに貯へ毎日水をとりかへておけば容易に腐るものではありませんそして入用のときに糊袋に入れて揉み出せば立派な糊が出來ます、夏季には殊に重寶なものであります

◆鷄の骨でスープ◆　鷄の骨は極上等を前のやうにして煮出すと極上等のスープが出來ます骨を細かにたゝいておくと一層味がよろしいやうです、玉葱と人蔘とを細かく刻み込めば非常に結構な味加減となります、鷄の骨は鷄屋に參ればほんの僅かで買へます

十一月九日

三碧　舊十二月八日（木曜）　かのと酉　なる　先勝　くろ日　斗

▼七赤▲得て思惑の外るゝ日なり
▼八白▲詭槍の來るのを防ぐべし
▼九紫▲僞りに寞ある日にて或は意外の方面より利益を得るや不知
▼一白▲目下のものより立てらるゝ日にて何ごとも面白く運ぶべし
▼二黑▲骨折甲斐のなき日なり
▼三碧▲默つて暮して好き日なり
▼四綠▲親しみのある懐しき日にして恐らく物ごとに愉快多からん
▼五黄▲盛運ひのことある日なり
▼六白▲親切を盛して仇になる日

商況

東京現株中値

七日正午中値

東拓	七九、〇〇
鮮銀	一五八、〇〇
滿鐵	一五〇、〇〇
第一新	一一四、〇〇
第二新	七六、〇〇
滿洲製糖	二三、〇〇
京城電氣	五七、〇〇
同新	一八、〇〇
朝鮮瓦斯	二五、〇〇
鐘紡	二四五、〇〇
大阪商船	一六三、〇〇
同新	……
日本郵船	一九四、〇〇
同新	九六、一〇

東京株式

七日後場

	引值
東株	二〇五、六〇
同新	一七八、二〇
大阪商船	一六二、八〇
同新	一二二、〇〇
日本郵船	一九五、二〇
同新	九六、九〇
鐘紡	二四七、七〇
同新	二三一、一〇
[illegible]	一五二、九〇
同	一一六、九〇
東拓	八〇、四〇
同新	三五、一〇

大阪株式特電

七日後場

東新　一八六、二〇　七日前場と比較　六〇高

合同	……	一、八〇高
鐘紡	二四九、八〇	二、〇〇高
同新	二三二、三〇	四〇高
東糖新	一一九、九〇	一、〇〇高
大阪商船	一六七、九〇	一、五〇高
同新	一一五、七〇	一、四〇高
日本郵船	一九七、九〇	九〇高
同新	九八、八〇	……
東洋汽船	九三、〇〇	……
同新	四〇、二〇	……
東株新	一七九、五〇	二、六〇高
大株新	二〇〇、九〇	二、四〇高
同	一八〇、〇〇	……

下關期米

八日前場　最新概合待ち氣迷ひ

寄付	三八、八〇	三八、六九
高値	三八、八〇	三八、七五
安値	三八、六〇	三八、五四
止め	三八、七〇	三八、六九

雜報

●正米弱持合ひ　前日の期米五十錢方の反落は强硬なる正米にも影響を及ぼし買人の附値一齊に安しと雖も新期廻米の緒海なるより賣人も高値手控ひさいふ丈けに相場は引續き持合ひ風情を示し短安の裡に双方睨合ひあり眼先は如何に變化するか例年の例を以つて速斷し難く何分供給の不足買强き折柄内地歩作又不良の豫想を傳へられ産地氣配依然として强硬を持し居れば相場は動もすれば上走らん傾向なるが値頃に於ては此邊決して低位さいふを得ず殊に於ては人買の裏面には必ず反動の伏在せるものあらんか今日の蘭貢米は我政府の交渉なれば一朝動機に接觸すれば當然現はれ來るべし當局禁輸中の愈解禁せられたれば之が結果は定期市場受渡米の代用も實現せられて直接間接に正米相場に其威力を及ぼすべし

●牛皮底堅し　牛皮は昨今京城改良大皮七十四圓上六十五圓小皮七十一圓中皮正味六十圓見當にて大小皮の如き昨年の最高値よりすれば二十圓以上の低落を示せるが續いて鮮人の思惑絶えざる爲め現在大阪相場との比較上尙割高に當れり從つて近來は一二の特殊のみにて多くは不採算の爲め時機見送りの風情にて商内甚だ閑散なり此處例年出廻り少ならぬ時期なると雖地方手持筋の買急ぎがざる爲め殆ど見る可き廻着なく尤も各地とも擁擁品少なからざれば互りの時期到來すべきや測り難きも昨今の市價は戰前に於ても屢々見る値頃なれば之以上餘り安値はなかるべし

●砂糖は强硬　砂糖は年末の大賣行後とて此處荷動き閑散を呈し相場も略ぼ持合ひと云ふ處なるも内地製糖會社は爪哇糖高を受け本年に入り建値十七圓十錢さより年末約三十錢高の齎れらし來つて現在當市中値の十七圓見當は非常の割安さなる丈けに問屋側の内意甚だ强硬にて一部手筋に於ては既に十七圓二十錢に唱へられ眼先一般に引締め傾向あり

●平板下押す　平板三十番は新規値安の入荷あるか市中値は十錢方下押し三圓四十錢さなりたり厚番は其後閑板の持合ひに動かず併し人氣さしては徐々不勢を免がれず

●錫再び軟調　昨冬來低落續きの錫は値頃の點より大手の買物現はれ年末に於て一時引戻し歩調となりしが貨勢之に伴はず大勢依然として不良を告げ眼先阪地安も又々下押し氣味を帶び居れば當市中相場も何れは百七十圓を打破るに至らん

釜山穀物市場（八日）

出廻り潤澤にて賣手脆弱なる折柄一向買氣昂らず只止むを得ざる小口補充買のみにて人氣は益々惡化し本日も又復二十錢安の三等神力三十六圓二三十錢にて三千叺許りの取引ありたり（釜山特電）

仁川正米

籾の入荷多きも精米筋の買進みに九錢五六厘見當にて商談出來せり

米内地輸出の買進みに地摺玄米三十二圓八十錢より三十三圓神力三等合格三十六圓見當を唱ひ買方も餘りの高値に觀合す見合す振合あり

仁川期米

▲八日前場（上放後反落）

一節　各地入電未著なるも昨大阪の止め

市場雜觀

昨大阪前場一節三十八圓〇一錢二節七十錢三節三十八圓八十二錢四節八十六錢五節八十三錢六節八十錢七八節九十四錢九節九十五錢十節當三十八圓五十一錢中三十八圓二十九錢先三十八圓〇三錢の止め長康三節三十八圓二十一錢六節十五錢京寄三十八圓七十三錢三節五十九錢六節十二錢下の開三節三十八圓四十九錢六節四十錢

▲七日は場大阪前場の跳返しを移して氣丈に立會ば當限來不申中三十二圓六十錢より七十錢と跳れ先三十四圓二十五錢と六錢高に寄付しも㊀㊁田器其他より買物現れ三十より五錢と下押せしか買方は値は持戒の振合にて伸悩み㊂三巴其他の賣物に二十九錢と押し三十錢三十一錢を保合ひ二十九錢と釘付け相場に打止しが買方は今日正米の採算上より買ひ來る形勢なるが大阪との鞘も三百六十丁迄縮少せしが如何に先高見越の買方さいへ一寸氣乘り過ぎはすまいか併し今日の正米より採算すれば決して大勢を無視せしにあらざるも殆んど三ヶ月の餘りある三月限なれば出廻の遅れ居る丈け先に持越し一時は當市場にも正米の山を築く時代の來らんと測せらるゝ向あるが强に角大勢は既に高値賣の時期に向ひしにあらずやと思考せらる引跡大阪一寄一節三十八圓〇二錢二節〇八錢三節一一錢四節三十錢五節不明六節當三十八圓八十七錢中三十八圓六十錢先三十八圓二十九錢の止め今朝天候曇天各地入電未著なるも前日大限三十四圓五十五錢と二十六錢の上放れに寄付三錢と弛みしも㊂の優勢買ひに因④園其他よりも買物現はれ更に八錢と品の物も消化され六十錢より更に入錢と品進せしも高値は目先利喰も現はれ六十三錢と下押し六十錢を採合り提先大阪一節三十八圓〇一錢と惡落の入電に買方の氣勢挫け㊀分角大④其他より優勢に賣り四十錢より更に三十三錢と崩れしも下値は地方筋の現物買の沈在せる丈けに底存外堅く三十八錢と跳返し五六を睨合ひ三錢と不勢の成行を示して打止めしが兎に角大阪の後報未著にて砂軟共に手控へ大阪の成行に如何に依りて活躍を開始する形勢なるが如し

仁川米豆取引所

八日の三月限

前場

寄付	三十四圓五十五錢
高値	三十四圓六十三錢
止め	三十四圓三十八錢
安値	三十四圓三十二錢

平均値段

一節	三十四圓六十錢
二節	三十四圓五十五錢
三節	三十四圓三十六錢
四節	三十四圓三十六錢
五節	三十四圓三十四錢

大阪期米（八日）

昨大阪の跳返しに人氣强硬に立會ひ中三十二圓九十錢と寄付買物多く三十三圓より〆五錢と上伸

先三十九圓五十五錢と二十六錢高に寄付き三錢と緩みしも八錢と跳返し高値は買物多く六十現はれ五六錢を採合ひ三錢引

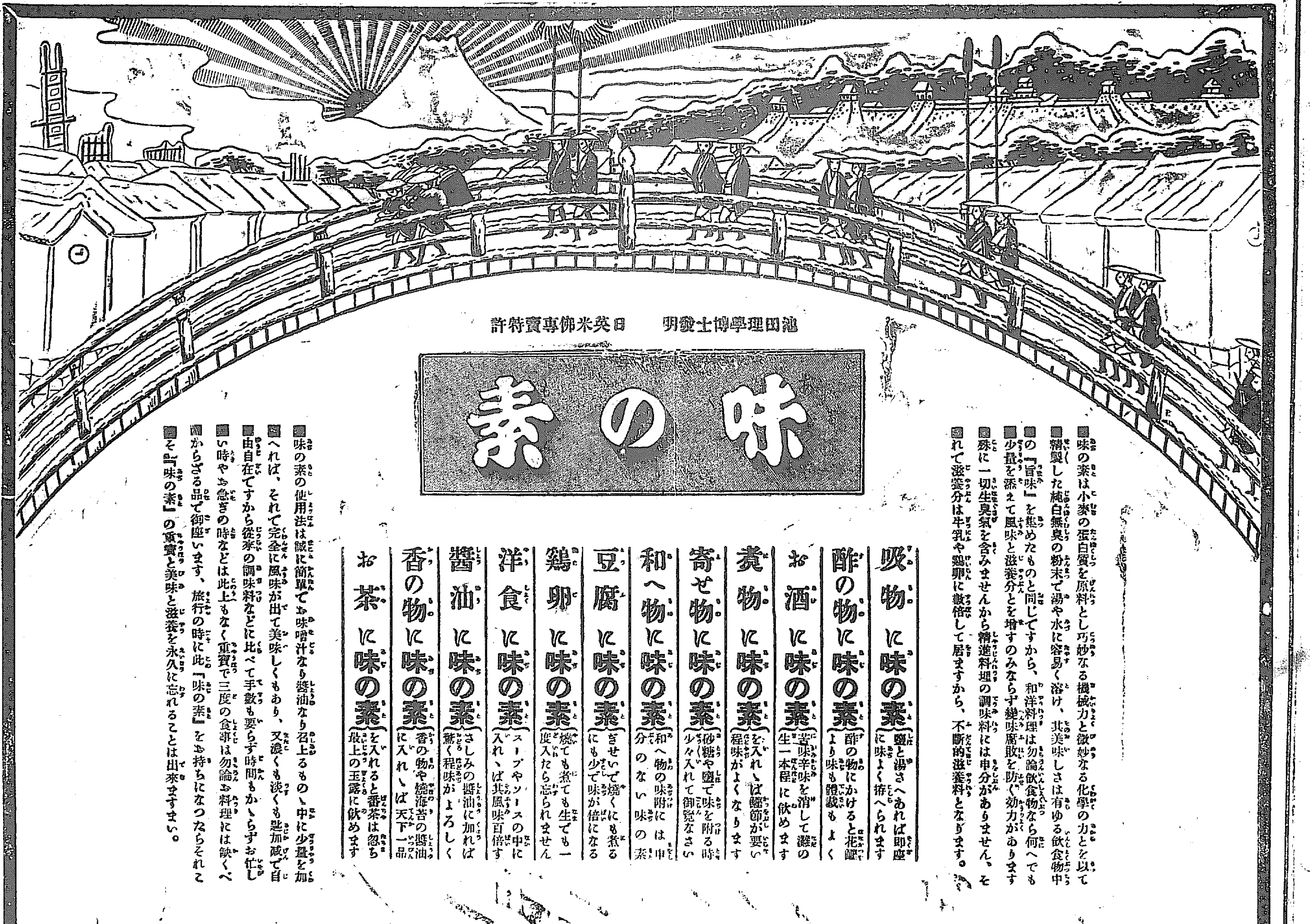
第二節　當限來不申中三十三圓〇三錢より五錢先六十錢より買物多く五十七錢と押目五十八九錢を採合ひし機先大阪二節三十八圓〇一錢の安報に氣配萎さなり五十錢より更に四十錢と迫壓されしも安値は押目待の買物多く四十八錢跳返したるも戻りは賣物多く四十三錢と押して引

三節　當限來不申中三十二圓九十五錢より買物多く八十錢より三十三錢下落せしも安値は買物多く三十五錢引

第四節　當限來不申中三十三圓八十錢より八十五錢先三十五錢より六錢五錢にて保合ひ七錢引

第五節　當限來不申中三十二圓九十錢先三十五錢より三錢さ四錢の小戻り三錢さ不勢に散

前場當限㊂三十五圓五十錢平均値五十錢▲中限㊀三十二圓九十錢五錢八錢三十三錢三十三圓丁度〆三錢三十三圓丁度〆五錢平均値〆四錢〆一錢㊂三十二圓九十錢八十錢平均値八十五錢平均値八十錢㊃九十錢〆八十錢五錢平均値八錢八十錢㊃八十錢ᐟ九十錢十三錢㊃三十四圓五十五錢三錢五錢四錢▲先限㊂三十四圓五十錢六十錢六十錢五十錢七十錢七錢八錢五錢五錢六十錢五錢四錢六十錢七錢六十錢七錢二錢五錢一錢三十錢三錢三錢五錢八錢七錢五錢七十錢三錢㊃四錢五錢七錢六錢㊂六十錢五錢八錢九錢五十錢四十五錢五十錢七十五錢三十八錢五物四錢三錢㊃四十錢一錢四錢五錢四錢三錢六錢七錢六錢四十錢四錢三錢五錢六錢五錢七錢六錢㊄三十五錢四錢三錢二錢三錢四錢五錢四錢五錢四錢三錢



京城日報

第五版

本紙定價　壹部金參錢　壹箇月金七十五錢　▲拾五週間分前金　▲參箇月前金貳圓　▲六箇月前金　▲壹箇年前金拾圓
廣告料金　五號十五字詰一行　▲特別二號　▲四號
發行兼編輯人　奧田直毅
印刷人　小川仁之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社
電話番號　編輯局六千九番　營業局三六千九番

大阪株式特電　東株新　九四〇〇　一七二三〇

京城日報　俗論を排す（一）

緒言

古き言葉なれど一年の計は元旦に在りといへり。大正八年は申すまでもなく歐洲大戰亂の總勘定を爲し、其の跡始末をつくると共に世界の新局面に向つて第一着手を爲すべき最初の年次なり。此の大なる事業は將來何年間の組織を以て確定するかは固より豫定するを得ざるも、其の第一年度に於て着手せらるゝ大體の骨組を建て置かざるべからざることは勿論なれば、至重至大の責任は係りて本年に在りといはざるべからず。

さて前後五年間に亘れる大戰亂の跡始末は、如何なる段取を以て整理せらるべきかといふに、講和會議、萬國平和會議といふ如き既定のものを取除けば、隨分茫漠として宗洋の感なき能はざるも、細かに考慮するときは、極めて多岐複雜にして國際的、國家的、社會的、地方的乃至個人家庭の間に亘りて、各種各般の問題が紛然として吾人の眼前に横はれるを見るなり。是等の問題を一々綜顧に提げ來り、其の內容を剖析し穿鑿し、之に對する相當の斷案を與ふることは實に容易の事業にあらず。雖も、事業の性質上、獨り之を専門爲政家に委任して止むべきにあらず、是非とも國民協力一致を以て其解決を告ぐべきもの大部分を占むる故に、之れに對して豫め左にすべきものは左し、右にすべきものは右にするだけの覺悟を造り置くの必要あるは吾人の喋言を俟たざる所なるべし。是れ吾人が今日より讀者と共に諸般の議論に從事せんと欲する所以なり。

先づ第一に考慮すべきは戰爭の跡始末に關する事柄なるも、是は講和會議の決定と繼續にして離すべからざる關係あるを以て、此事柄に就いては吾人輕々しく筆を下すを得ざるも、其の帝國に關する事柄にして、既に世上に發表せられたるものに就き、吾人の希望を發表するは敢て不可なかるべく、而も穩健なる國論を以て、我講和使節の後楯たるは、此際に於て必要なりと信ず。次に所謂永久平和に關する米國邊の唱道に就いては強て反對を唱ふべきにあらずと雖も、彼等の誤解を招かざるの程度に於いて、我國論を發表するは、是亦必要事たるべし。而も是等國際關係の事を云爲するは、動もすれば言論の無責任に陷るの弊を發し、れざるが故に、吾人は殊に此點に注意せんと欲す。

吾人が最も痛切に憂慮する所は、寧ろ同胞國民の上に在り。即ち近來動もすれば横道に外れんとしつゝある國民思想に對し、はた此憂ふべき傾向を助長し、若しくは煽動せんとする、一派論客の所論に對し、主として破邪顯正の實を擧げたき考へを以て之れに關する項目を分ち、吾人の微衷を披瀝せんと欲す。是れ吾人が數年來、關陸の熱血を濺ぎ主張し來れる所なるも、眼前の世界的大波瀾が漸く我思想界を漂蕩せんとする處あるに臨み拱手傍觀すべきにあらざるを以てなり。

大戰五年の回顧（六）

參戰の決定

米國の參戰

米國の參戰は此の長期戰爭の終結をして速かならしめたるの功あり。千九百十七年四月五日を以て米國は獨逸に對して宣戰せしも、米國の茲に至る迄は實に數多の迂餘曲折を經たり、米國が獨逸に對して外交斷絶を宣言せしは、千九百十七年二月三日にして、其は獨逸が同月一日無制限潛航艇戰開始に原因するも、既に米獨間には其前年三月に於けるサセックス號爆沈及びルシタニヤ號、アラブック號擊沈に關して、交渉を重ねつゝありしなり。之より先千九百十六年十二月米國大統領ウイルソン氏が各交戰國に對して發したる戰爭終局の條件と其の再起を防ぐ方法に關する通牒は英國に尠からぬ反感を惹起し、且つ又千九百十七年英國の封鎖政策、商船武裝、包括的禁制品、黑表郵便物差押へ等に關しても亦英米外交關係に尠なからざる障礙ありて容易に其解決を見ず交渉を續けつゝありしが、斯くて急轉直下して、險惡なる米獨關係は、無制限潛航艇戰に於て終に極度に達したり

大統領の決意

二月廿六日大統領は獨逸の新潛航政策に對する危險を說明し、公海に於ける米國船舶と、米國市民とを保護するの權能を議會に要求したるも、下院は三月一日を以て商船武裝の權能を大統領に與ふるの議案を通過せしも、上院は故意に此議案の通過を妨害し、若くは遲延せんとするの態度見えしより、大統領は憤然として、公會演說に於て容赦なく之れを攻擊せり。斯る內に獨逸外相チンメルマンの日墨陰謀暴露し、大に米國の輿論に反響し、越えて二日大統領は第二期就任の教書を發し、四月二日に至り再び戰爭演說を議會に試み、大統領の決定は最早一點の疑ひを容れざる參戰決定と分明し、ウイルソン氏は堂々と獨逸に對する攻擊を繰返し、潛航艇戰は全人類に對する戰爭なれば公式宣戰の決議案を採用し、戰爭遂行の全權能を附與せられん事を要求せり

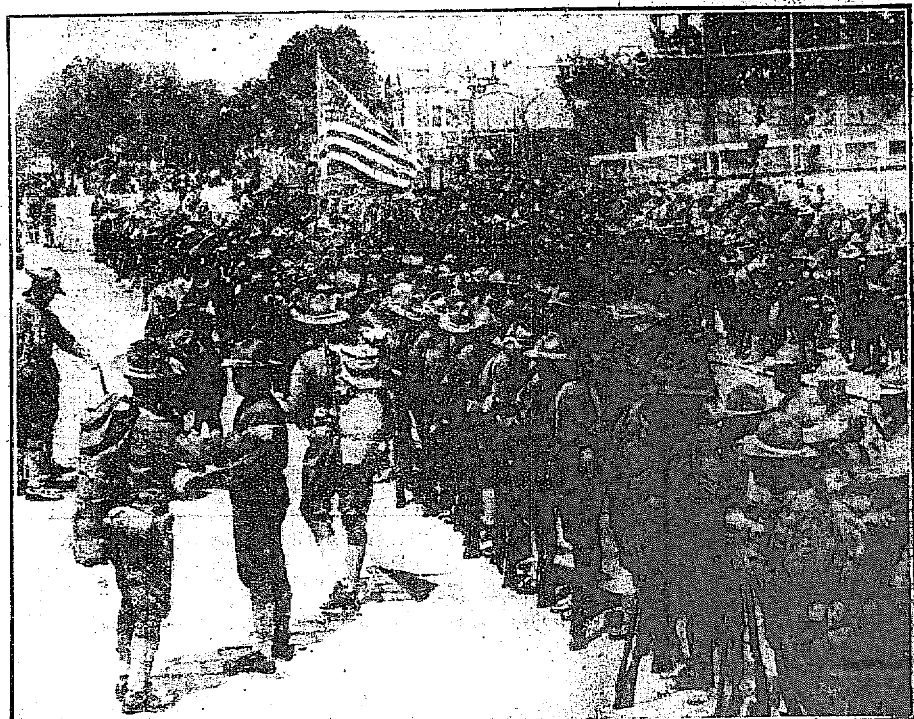
參戰の決定

而して本案は四月四日投票の結果四對八十二票を以て上院を通過し、四月六日六對三百七十三票の大多數を以て下院を通過し、同日大統領の調印を經て公式に獨逸に對して宣戰すると同時に、開戰宣言の發表となれり、繼いで四月八日墺國とも外交關係を斷絶し、同月二十日土耳古と外交關係を斷絕し、獨國のみに依然米國と外交關係を維持し、米國と聯合國との關係は四月下旬バルフォア氏等を正使とする英國使節一行と、ヴイヴイアニ氏及びジョッフル將軍を正使とする佛國使節一行の華府訪問者に出つて、一層密を加へ、我石井特使を始め、伊、露、白國の各使節も亦米國に到著して、米國は參國時局の重大に鑑み、エリユー・ルート氏を正使として露國に送り、六月五日更に英國は英國對米國、聯合諸國對米國との關係を調節するの必要なるを以て、ノースクリッフ卿を常設委員として米國に派遣せり

出兵の準備

米國は參戰と共に戰爭準備の計畫を立て全勢力、全資源を擧げて戰爭に投ずべく計畫し、先づ正規軍を戰時編成となし、各州所屬の國民軍を中央政府の手に移せり。米國の戰前に於ける兵力は正規將校士三萬七千人なるも、內海外に駐在するもの三萬人あり、國民軍將校十三萬二千、陸軍豫備五千三百七十八萬弗なりしが、國勢調査の示す處に依れば、十八歲より四十五歲までの壯丁二千萬、年々適齡に入るもの約百萬人なるより、大統領は兵役を議會に提出し、四月廿八日を以て徵兵案は大多數を以て議會を通過せり、茲に於て參謀本部は第一着手として、徵兵法に依るもの五十萬人を得、義務制度に依り正規軍を二十八萬七千人に、國民軍を六十二萬五千人に增加し、[illegible]を供合せんと計畫せり、是は未來の計畫にて[illegible]歐洲戰線に出征せし[illegible]能なるが故に、六月五日、全國に[illegible]て先づ廿一歲より三十一歲[illegible]丁を兵籍に入れ、更に[illegible]て最初の計畫を變じ[illegible]を百萬人に[illegible]先づパーシング將軍指揮の下に先遣隊を歐洲大陸に送り[illegible]米軍は佛國戰線に活動を開始するに至りぬ、其他軍器及び飛行機等の製出に全力を注ぎ、フーヴアー氏を食料監理局長に新任して國內の食料の節約分配を調節し、產出增加[illegible]を計畫し、[illegible]

斯く全勢力、全資源を傾けて大規模の計畫を着々實行せしめ、休戰當時の米軍出征總數は實に二百萬に達せり、斯て米國の後援偉力は聯合軍側が、其新鋭の應援に士氣百倍せしに反して、獨國側の士氣は益々沮喪するに至れり、大戰五年間の回顧は、尙ほ未だ夥多にして盡きざるものあるも、今は唯其一斑を記して讀者の一覽に供せしのみ。（終）



米軍先遣隊の出發

吉林水道問題

帝國領事の活動

[illegible]は大半松花江の濁水を飲み衛生上危險少からず

△水道設置の必要は[illegible]る處なるが新任帝國領事[illegible]氏は過般省長に對し其日本人にして敷設の希望あらば之れを許可するやと推問[illegible]長は水道事業は地方の[illegible]なる關係あるを以て當地[illegible]して之れを行はしむべしと[illegible]に謝絶したる由而して領[illegible]は當地方の問題となり[illegible]日常必要のものなるに未[illegible]を見ざるは畢竟吉林に自[illegible]にして若し此儘空過せ[illegible]人の制に甘んぜざるを得[illegible]んとて吉林有力者の希[illegible]れり然るに探知する處に

△問題の發生せるは[illegible]前の事にして當時孟督[illegible]目下名譽副官の地位に[illegible]總理命齡章が上水道布[illegible]得獨商シーメンス商會に大洋十六萬五千元を以て全部の布設を請負はしめたり折柄偶々支那が歐洲戰に參加するに至りしより右獨商は敵國人の取扱ひを受くる事となり爲めに水道問題は一頓挫を來すに至れりされど當地の支那人は獨商を信ずること頗る厚く愈平和恢復せば必ずシーメンス商會は商業大いに各方面に雄飛するに至るべく水道問題も必ず再燃すべきを以て同商會をして請負はしむるは最も得策なりとし請負金十六萬五千圓は今尙

△官銀號に特別預金として預け居れりと尙某氏は渦般徐と會見の際水道は日本人と共同經營せば速成上便宜多かるべしと勸めたるに彼は必ずしも之を希望せざるも省長は地方利權に關すとして恐らくは之を聽許せざるべしと告げたりと（某所著情報）

新春詩壇

歲朝晴雪

三等　燕岐　秋齋　榮

北陸寒初盡。雪晴正値春。白三占歲熟。出六幻花新。疾疫方[illegible]日。衣冠共賀辰。喜安猶獨愧。聊爲[illegible]人。

三等　開慶　辛灼鎮

七八雖稍霽。通宵岩逸[illegible]。六花新獻瑞。萬國賀文明。比物無瑕白。令人得至清。江山開玉局。草木發春榮。帝春牛活活。新元降穀精。

題酒樓壁　小永井槐陰

三四氣象渾融

憫向高門頁一嘲。酒樓醉臥太平民。玉琴揮去絃絃妙。銀碗盛來滴滴馨。馬上不尋卅年夢。筆端常張四時春。江山萬里無窮業。何必麒麟閣上人。

學富日、孫蒙不嘲、如讀鄧秀小舟先生之詩、

新演藝　新年號

■表紙は鳫治郎の原色版似顏繪
■石版十二色刷の芝居風俗六枚
■東西大劇場の三色寫眞版六枚
■帝劇と新富のコロタイプ二枚
■舊派と新派の著彩寫眞版六枚
■舶來光澤紙刷の寫眞四十八頁

■噫感に訴ふる劇……伊原青々園
■酒席の歌右衛門……鬼太郎(?)
■市村座奬勵劇……鬼太郎
■足袋一足の問題……片岡我當
■明治座の默阿彌劇……久保田萬太郎
■中座の棧敷から……石割松太郎
■大阪の一年間……中井浩水
■演藝廟禮記……吉田[illegible]
■新富座と中座の芝居見たまゝ

■劇壇の新機運　田村成義、大谷竹次郎、山本久三郎及白井松次郎氏の大膽なる告白
■十年前の役者　現下劇壇の大立物々花形が十年前には何をして居たか興味ある問題
■我地方の芝居　全國廿二府に特置せる本社通信員が特に本號の爲めに調査せし報告

定價八拾錢　送料四錢
東京市芝公園九號地　玄文社

賜天覽

米國大統領ウィルソン氏著
日本代議士前副參政官　關和知氏譯

新自由主義

縮刷菊判半截形　箱入美本定價一圓　送料內地八錢・鮮滿十錢

縮刷　廉價　發賣

今や世界第一の巨人として、又現代平和の盟主として億兆の渇仰を受けつゝ人類與望の中心たる米國大統領ウイソン氏が其金口を開き赤心を吐露せる稀世の名著は茲くが如き江湖の需求に促されて縮刷を刊行せり。其立論の雄大にして而も深遠を極めたる、其主義の高潤にして直ちに眞理を示現せる、一面曠世の大碩學たる氏の活きたる政治哲學にして他面又此無二の大哲人が現代に溌れる新思潮の大勢を豫見し、社會問題、民本主義、民衆政治の基調を闡明して之を解決すべき最高標準を道破せる獨省的獅子吼也。忝けなくも叡覽の榮を賜ふ、苟くも國民たるもの『新自由主義』を味讀せざれば現代世界の一大思潮を解する能はざるべし

文學博士　大類伸氏著

現代世界の史的觀察

（四六判クロース箱入美本〇定價金壹圓八拾錢　送料內地八錢、臺灣朝鮮樺太十錢滿支三十錢）

◆先づ本書を讀みて歐洲講和の情勢に著目せよ◆　世界平和に際し必讀し悅ぶべき良書なり

本書は史學界の新權威大類博士が世界の發展を歷史的に回顧して現代の形勢を觀察したるが、帝國主義あり國家主義あり更に之を論じ兩者の關係を說き興趣盡きず、本書を讀みて歐洲目下の講和狀況に著目せば感更に深く各國の折衝に一層の興味を催すべし、卷末には興味深き統計を添へあり一目世界の大勢を知るを得。

東京市麹町區飯田町一丁目　株式會社　天佑社　電話番町二一〇一七・二九八番　振替東京一〇一二八番

鮮語自在

新案獨學　イロハ辭典付

誰れにもすぐに間に合ひ
必ず上手になる理想的新案獨習書なり

（著者は鮮語獨習に關し獨創の見を懷き從來の所謂獨學書類と其撰を異にし殊に一新機軸を出し特に新案の文字を冠せり
上欄にはイロハ辭典及朝鮮地名集を付す
本文には諺文の組立、文法、會話、作文、發音等の細則に關する一切を網羅せり）

定價二百頁　ポケット形　五十錢　送料二錢　代金引換小包七十錢

發賣元　京城太平通　京城日報社代理部　（振替京城三〇〇番）

豫言的中

新年號の雜誌八相新聞社第三年第一卷には未年生れの人の運命を語り大評判の世界豫言が的中して居る此豫言は東株郵船紡及び綿絲の騰落足を月別表にして、これさへ見れば本年中の相場が判つて取

株成金にキツミなれる、一部八錢、一年八十錢、此際一年分及び送料八錢拂込者には相學上より見たる開運の秘訣を書いた和裝二百頁の美本、吉運の友を無代にて贈呈する代金は金一圓〇八錢の事　引替の御注文

東京芝區新堀町　人相新聞社　振替東京三九八八六番

株式名義書換停止公告
來ル一月二十三日ヨリ第三回定時株主總會終了迄株式名義書換ヲ停止ス
株式會社　朝鮮殖產銀行

ワシントン萬年筆

正十四金々ペン付
本品はワシントン萬年筆は正十四金ペン付にて廻轉式なればインキを吸入するにスポイトを要せずインキの出工合頗る自由なり而して責任保證付なるを以て極く堅牢に製作なしあれば沈漫に使用するも破損の心配なく最も尙しき說明書は萬年筆と同時送呈す

萬年筆定價表
二號	廻轉式 婦人及學生用	貳圓八十錢
五號	同	參圓七十錢
六號	同	四圓
八號	同	五圓二十錢
九號	同	五圓三十錢
十號	同	四圓六十錢
十一號	同	五圓
十二號	操出式安全裝置（無飾）（金飾）	六圓二十錢
十三號	コンクリン式	拾錢

送料　朝鮮內無料・外國二十錢…代金引替料・代金引替料三十錢

薄利多賣主義　ワシントン萬年筆朝鮮代理店
京城南大門通一丁目　宮川大學堂
電話一九五九　振替京城一二九番
御望により寫眞入定價表御送附可申上候也

最新刊

相運上人	宮衆社版	一、八〇
再び草の野に	拓殖	一、四〇
時の影	拓殖	一、八〇
西鶴物語一代女	吉川	一、五〇
英國百傑逸話の研究	永田秀次郎	一、〇〇
我思ふ所		一、〇八
株式の心得べき事		一、三〇
大正七年改版 朝鮮法令輯覽 定價拾四圓送料四十錢		二、〇〇
關係再映		一、二〇
將來の日本と各衆の青年	送料	一、〇〇
男子の本領		一、〇〇
繩刷死の鐘		一、八〇

京城本町一丁目　大阪屋號　振替京城五七三番

公示催告

京城府南大門通三丁目九十五番地　申立人　高瀨政太郎
[illegible]

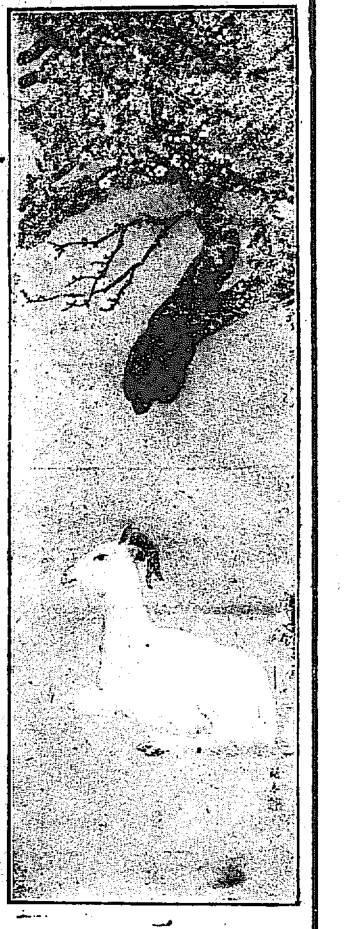
大正八年一月六日
京城地方法院

公示催告

京城府[illegible]　申立人　高田愛吉
[illegible]

右證券ノ所持人ハ大正八年八月六日午前八時迄ニ當院ニ其ノ權利ヲ届出テ且其ノ證券ヲ提出スヘシ若シ其ノ届出ヲ爲サヽルトキハ其ノ證券ノ無效ヲ宣言スルコトアルヘシ

大正八年一月六日
京城地方法院



試筆　古賀祐雄

◇過激主義旺盛 聯合國對露政策決定急務

過激主義は想像以上に歐洲の平和を脅かすに至り露國のみならず獨逸にも益々傳播し羅馬尼にも蔓延しつゝあり今や露國過激主義者は軍隊と衝突せるが聯合國は露國に對する確乎たる政策を早速決定せざる可らずこの觀念益々強くなりつゝあり（紐育電報）

◇波軍侵入と聯國

波蘭軍伯林進撃は紐育の人心を刺戟せるが既に中歐諸國は聯合國の休戰條件に服從し居れば聯合國は中歐諸國を保護し外部の侵入を防ぐ道德上の義務ある可しと稱せらる（紐育電報）

◇支那關税改定綱要 本邦重要品に對する引上税率

支那關税改定會議は客年十二月二十日を以て無事終了せるが我政府にても去る二十九日歸朝の委員より會議決定案を入手したるを以て今後樞府諮詢を奏請す可く御裁可あり次第支那政府に實施方承諾の旨回答する筈にて此後は別に公式批准の手續きを執る事無く之が實施を見る可しと實施期は目下不明なるも多分二月一日以後なる可く改定税率内容は公表さるる迄不明なれど本邦重要品に對する引上税率は三四割以下に止るも或重要品は引上げざるものもあり一般を通じて二割五分見當の引上げなり（東京特電）

◎英國復員進捗 軍需品五十億

英國は這次の大戰に際し國家的總動員を行ひ出兵したる大軍の復員に關しては多數の失職者を出す虞あるため社會的大問題として朝野の間に講究されつゝありしが同政府は戰爭の末期より各專門家を集め產業復員に關し調査研究せしむると同時に軍需省内に

▲復員局を新設 し除隊兵約五百萬人及政府の軍需品製造職工約百萬人合計六百萬人の復員を行ふ事となり先づ軍隊の復員に要するもの、平和的產業を起し行くもの、炭礦採掘に從事するもの、復員後直ちに就職口あるもの等の順序を以て昨年十二月九日より英帝國內に六箇の復員事務所を設置し十四五日間に約十五萬人の除隊兵を出したるが後同事務所を增設して二十箇所とし一時間百人乃至百五十人を復員せしめつゝあり而して

▲復員完結の期 は詳ならざるも最近陸軍大臣は軍人の入院治療は十二月三日より六十日間停止することなせり此ことなれば或は同期日間には復員の終了を告ぐるものなるべきか尚軍人の復員には復員後一箇年間文官採用の優先權を與へ又は規定の除隊日より二十八日前に實際の除隊を命じ就職口を求めしめ失職手當を給與する等種々の特點保護を加へたるが勞働復員に對しても應急策として特別失職手當を給し工場に於ける時間外の勤務を廢止せるも

▲最低賃銀額 一週十八歲以上の男子十五圓十八歲以上の女子十二圓五十錢十八歲未滿の男子七圓五十錢同女子六圓二十五錢と定め其他種々の便宜を與ふる外一方には平和的產業の復興を獎勵しつゝあり尚現在政府の所有する軍需品約五十億圓あるも將來は之れを民間に拂下ぐる筈なりと（東京）

◎歐米爲替低落 對外相場の均衡

休戰以來國際貿易は漸次不振の傾向を呈し我輸出貿易も亦常態に歸復したれば歐米各方面共に爲替相場の引下を爲したるを以て五日橫濱正金銀行建相場は對英磅共賣に於て三ポイン、買に於て二ポイン、對米爲替は四分の一方引下たる勿論昨年末來我輸出貿易は稍不振の姿となれるに原因するものなるが然し乍ら現在の狀勢より觀れば猶外より我國に對する送金依然旺盛なるを以て早急に對外爲替相場引下を行ふ必要なし然れども英佛米諸國は講和問題の推移と共に一入弱含みしより爲替も共に引下を行ひたれば亦我國も之れが均衡を保持する上よりして引下を爲せるものの如し五日正金建相場は倫敦方面電信賣二志二片十六分三要求賣二志二片四分一四箇月賣二志三片二分一六箇月賣二志三片四分三志都尼電信賣二志二片十六分三、九十日賣二志二片四分一信用賣二志二片十六分十一、佛國電信賣二法八十三參要求賣二法八十四參四箇月信用賣三法九參紐育電信賣五十一弗八分七要求賣五十二弗三十日賣五十二弗四分三、四箇月賣五十四弗八分三を示せり（東京）

◎昨年末郵貯高

遞信省貯金局に於ける昨大正[illegible]三圓を增加せり更に之を大正六年[illegible]て十四萬二千二百五十二人預金額に於て一億四千二百六十二萬六百[illegible]に於て五百七十六萬一千九百三十八十二圓の增加を示したり（東京）

◎前年鮮鐵收入 一千五百萬圓＝四割增收

朝鮮鐵道京城管理局內管に於る大正七年中の貨客收入は旅客人員八百三十六萬人にして之を前年に比すれば百八十八萬人を增加し總收入七百七十三萬圓を示し二百十九萬二千圓を增加し貨物噸數は二百五十二萬噸にして前年に比し十八萬六千噸を增加し總收入七百七十一萬圓に上り二百十二萬圓を增加し合計に於て運輸總收入は一千五百四十四萬圓を示し前年より四百三十一萬圓を增加せり其の主なる原因は一般經濟界良好の影響にして今猶全線に亘る堆貨を見るが如きさ又昨年中は時々軍隊の大輸送ありたる等にして總收入は前年の約四割を增加せりと

◎政務總監歸城

山縣政務總監は客臘二十九日山口縣萩に歸省中の處八日午後九時十分南大門驛著列車にて釜山迄出迎へたる遠藤秘書官帶同歸城せり

◎昨年造船實績 進水高七十萬噸

昨大正七年一月以降十一月末迄の間に於ける總噸數一千噸以上の本邦船舶進水高は鋼鐵船百五十隻四十三萬八千四百二噸木造船十三隻一萬五千四十九噸合計百六十三隻四十五萬三千四百五十一噸なることは既報の如くなるが更に同年十二月中に鋼鐵船十九隻五萬四千二百七十八噸木造船一隻千三百噸合計廿隻五萬五千五百七十八噸の進水ありたれば結局七年中に於ける千噸以上の船舶進水高は通計百八十三隻五十萬九千廿九噸となり之に千噸以下の小型船進水高約十九萬噸を加算せば昨七年中に於ける本邦の船舶進水實績は實に總噸數にて七十萬噸の多きに達したる次第なり（東京）

◎府令二件公布

大正三年朝鮮總督府令第百三十五號憲兵隊管轄區域及配置表中改正の件は九日の官報にて公布即日施行さるべきが右は別表中一部を改正せるものにて警察署の事務を取扱ふ憲兵分隊の名稱位置管轄區域を變更する結果自然變更の必要を生じたるものなり▲大正三年總督府令第百二十六號警察署の事務を取扱ふ憲兵分遣所の名稱位置管轄區域中改正の件は九日公布即日施行せらるべきが右は行政區劃と一致しむる爲改正を加へたるものなり▲大正三年總督府令第百二十七號警務部及警察署の名稱位置管轄區域變更の件は九日公布即日施行せらるべし

年頭に立ちて（三） ▼紐育進に倫敦と朝鮮銀行

朝鮮銀行總裁 美濃部俊吉氏談

倫敦及び紐育に於ける朝鮮銀行の支店設置問題、少しく標題は世界的となるが年頭に立ちての所見としては大きいものを扱つた方がよからう

▲紐育支店は本年中に設置 紐育に就て本年の計畫を申すと紐育には人繰の都合さへ附けば成るべく早く開店したいと思つてゐる、又その心組みで行員の派遣を行りつゝあるのである、唯紐育では外國銀行支店の新設を認めない事になつてゐるため、エゼント（代理店）とする外はない、既設の正金も紐育に於ては皆エゼントとしてゐるのである、尤も名目はエゼントでもブランチ（支店）でも構はない、事實上の仕事をやつて行けばそれでよろしい、又紐育に一店を設けた所で何も預金を吸收しようの貸出しを初めようのと云ふ譯ではない、滿洲の各店や內地支店を主とする對米國爲替の處理をしようと云ふにあるから大した事はないのである、又倫敦支店も何れ新設をせねばなるまいが、然し必ずしも急ぐに及ばぬ事情にある、先づ本年中に着手すると云ふ段取りには行くまいと思ふ

▲世界金融の中樞地異動如何 以上は朝鮮銀行現下の立場から割出したのであつて必ずしも世界金融の中心地に先づ支店を設けようと云ふやうな譯ではない、然らば世界金融中心地が如何に動いて行くかと申すに素より目下の所確たる事は云ひ難いけれども吾人の所見を綜合すると要するに大戰の經過につれ世界金融の中心は全く紐育に移つたが愈々平和となれば大戰前に大戰開始當初の如く金融の中樞は漸次倫敦に移つて行きはせぬ乎、少くとも英國としては之れを倫敦に移すべく非常の努力を惜しまぬであらう、又移さねば倫敦財界の不利は破的であるし、その金融的に占得した名譽の大部分を失ふのである。然し紐育の財界は大戰によつて急激に膨脹して居り、その戰爭繼續中世界金融の中心地として殘した功績は素晴らしいものであり、茲に戰爭が終結して直ちに倫敦の下位に立つ事はあるまいと想像され得る、從つて世界金融の中心地が結局倫敦と紐育の兩立になりはせぬ乎と云ふ說を生むに至つたのである、又予は倫敦財界の喉臓の古い點から見てもその實力より觀察しても兩立と云ふ事は必ずしもあり得べからざる事ではない、然し乍ら尚ほ紐育に比し一日の長ありと云ふを得べく、結局倫敦は漸次世界金融の中心地にかへり紐育は一部を代表する金融中心地に變りはせぬ乎と考へてゐる

◎昨年朝鮮貿易 輸移出入二億二千二百萬圓（二）

▼輸移入重要品 輸移入品の狀況を觀るに繰綿百五十五萬餘圓晒金巾及び晒シーチング四十三萬餘圓牛皮及び熟皮三十一萬餘圓銅鐵二十四萬餘圓を減ぜるも

▲米六十二萬餘圓 百七十七萬餘圓小麥粉八十六萬餘圓砂糖百十二萬餘圓生金巾及生シーチング五百六十九萬餘圓日本木綿百四十六萬餘圓紙類百七十五萬餘圓熟鐵百二萬餘圓軌條及同附屬品百四十萬餘圓諸器械九百二十萬餘圓石炭四百七十七萬餘圓小包郵便四百八十五萬餘圓を激增せり內譯左表の如し

▲輸移入重要品二年比較

品名	大正七年	大正六年
米	一、五五一、〇三二	一、九二九、七八一
粟	三、一〇〇、一二二	一、三二四、一四一
小麥粉	一、八七四、一四六	一、〇一二、三一五
食鹽	一、九〇二、四七五	一、〇〇三、〇六二
砂糖	三、三二四、二四三	三、二〇三、六六〇
石油	二、六一〇、五二七	二、六五一、三三三
繰綿及打綿	一、五〇二、六三六	八三九、四八〇
綿絲	三、一四六、三七二	四、七〇四、四一七
生金巾及生シーチング	一六、六六三、三九三	九、九六五、六[illegible]
晒金巾及晒シーチング	三、二七七、三六八	三、七一六、三一五
天竺布	一、三四七、八九五	一、〇二〇、四一八
綿縮子及綿イタリアンス	五四五、八六一	五七六、一六二
日本木綿	五、五〇六、九三一	四、〇四一、六九三
支那麻布	二、四七四、九七二	二、二一〇、七六〇
毛織物	六四八、八六三	六一二、八〇七
絹織物	三一六、〇六七	八四一、三八四
洋紙	一、八六九、七七四	一、一二〇、三一〇
其他の紙類	二、四六〇、〇三九	一、四五四、八四五
熟鐵	三、三四七、六六五	二、三二一、八七六
鋼筒及管	八八八、九三三	四八七、〇七一
軌條及同附屬品	二、六七七、七七六	一、二七〇、二五八
諸器械	一三、八六八、七六七	四、六六二、二九九
煙草	八一九、八五一	六八八、一五一
生皮及熟皮	三四五、一九二	六六〇、二一五
銅鐵	二四一、九五三	四八六、六〇八
石炭	八、三七六、〇二一	三、五九八、三七三
木材及板	二、七三三、二二一	二、八〇五、一五九
セメント	一、八一六、三八一	一、六八一、三三八
叺繩及莚	九一七、九九二	九八一、五〇七
マッチ	二、一三四、三六一	七七〇、〇二四
爆發物	九七一、二三七	一、〇四四、二五五
小包郵便物	一〇、四八三、二四七	五、六二九、五九七
其他諸品	五六、九二三、六七九	三六、五六八、六七七
陸接國境輸入品	二、〇九〇、〇六二	一、二〇五、五八〇
合計	一六〇、三九九、四三五	一〇四、〇九二、三一六

▼通過貿易 通過貿易總額は五千五百九十五萬餘圓にして前年に比し六百四十二萬餘圓を減少せり以下各經路別に其の槪況を述ぶべし

▲釜山及新義州通過貿易 （イ）本年滿洲仕出貨物の鐵道に由り新義州及び釜山を經由し內地に仕向けられたる貨物は一千百五十八萬餘圓にして前年に比し百二十萬餘圓を增加せり（ロ）內地仕出貨物の釜山新義州間鐵道に依り滿洲に仕向けられたるもの總額三千九百五萬餘圓にして前年に比し一千五十五萬餘圓の減少を示せり

▲清津港通過貿易 （イ）本年間島及び琿春方面仕出貨物の清津港を通過し內地へ仕向けられたるものは總額二百二十二萬餘圓にして前年に比し百三十萬餘圓の激增を示せり（ロ）內地より清津を經由し間島及び琿春方面へ仕向けられたる通過貨物は總額二百三十一萬餘圓にして前年に比し八十三萬餘圓を增加せり

▲元山港通過貿易 元山通過貿易は前年僅に二十萬圓を算せるに過ぎざりしが本年は四月以降日本海橫斷航路の開始に伴ひ滿洲產の新義州より鐵路元山を通過するもの多く出で芝罘より仁川元山を經て浦鹽へ向ふ貨物も多少之ありしを以て總額七十八萬餘圓に達せり

▼加工貿易 加工貿易は加工製造の原料品として輸移入したるもの五十一萬餘圓加工又は製造の上輸移出したるもの百六十四萬餘圓にして差引百十三萬餘圓は

▲朝鮮の收入に 歸せりと云ふを得べし更に之れを前年と比較するに輸移入にありては絲綛及び皮革製品原料の前年僅に二十三萬餘圓を算したるものの獨り皆無となれるのみにして眞製造原料は二十三萬餘圓絲綛及び布帛製品原料は五萬圓を增加し殊に罐詰原料は前年僅に五百圓に過ぎざりしに本年は七萬六千餘圓に上りたるを以て合計十三萬餘圓を增加し輸移出にありては皮革製品百二十萬餘圓を減退せりと雖も紙卷及刻煙草の百三十九萬餘圓を最なるものとし罐詰十九萬餘圓絲綛及び布帛製品二萬餘圓を增加せるを以て結局合計四十萬餘圓の增進を示せり即ち左の如し（終）

品名	大正七年	大正六年
絲綛及布帛製品原料	六五、七二四	七、九八九
帽子原料	一、七一五	一八八
紙卷及刻煙草原料	三七三、九六三	一三九、七六九
罐詰原料	七六、七八三	五〇〇
皮革製品原料		二三八、三九六
合計	五一八、一三三	三八六、八四二

▲加工並製造輸移出額前年比較

品名	大正七年	大正六年
絲綛及布帛製品	三六、一八八	一六、三五四
帽子	四六五	
紙卷及刻煙草	一、四一四、三二三	二〇、八五一
罐詰	一九五、〇六八	
皮革製品		一、二〇九、六七二
合計	一、六四九、〇三五	一、二四六、八七七

◎本年東拓移民

東洋拓殖會社にては大正八年に募集すべき第十回東拓移民の收容地其の他に付目下京城支店殖民課に於て調査を進めつゝあるが一月末までには各種の決定を見總督府に許可の申請を行ふべくその發表は三月上旬となるべきが募集戶數は略昨年同樣乃ち第一種約一千戶第二種五六十戶ならんと

◇鳥瞰錄◇

大町桂月氏は一度筆を揮へば一語千金の文字を生む底の文豪だが口は極めて不調法で加之有名な吃だ▲その先生が頃日龍山の鐵道俱樂部で一場の講演をやつたが對話よりは割合スラ／＼と言葉が出て來る然し矢張り口より手の方が先へ出る方で演說中頭の上へ手を持つて行つて振り廻すから面白い▲米が莫迦に騰貴するので去る人他人の頭痛を病氣に病んで川上東拓理事に『東拓は儲かるでせう』と問いたものがあつたが氏の曰く『儲かつたら分配しますよ』と但し株主にならで其明喜び損をしたと云ふもの▲客騎兵井哲夫君大いに狩猟さんと彈藥兵糧をウンと仕込んで江華島で終日驅ずり廻つたが鷸張り駄目なので大いに憤慨して曰く『朝鮮の鳥も總督政治の惠澤を浴して居るか最早昔日遊猟の島では無い迚も敏捷で手に了へぬ』▲這が鳥の方では『アノ身體ではコッチが迷ける何の敏捷を要するものか』と云つてるげな▲松井須磨子の死は大分同情を惹いて居る何でも其の死んだ日は故抱月君の命日だと云ふ▲新比翼塚も可からうが今に至つて更に抱月君が出所を誤つた事を新に嘆惜せざるを得ない▲此の事件も亦悪因が悪果を結んだのに外ならぬ穴恐ろしや▲須磨子が死ぬる前日故押川長官の可愛がつて居た丹巴雨龍も死んだ▲何でも例の大疑獄裁判で無罪になつた喜びの餘り感冒を打ちやつて置いたら肺炎に變じたからだ相な▲之れがほんとの糠喜びと云ふもの何れも問題の人であつたが三途の川で押川長官と抱月君の出迎へを受けて面を合せてオヤ／＼と云つて居る事だらう

◎鮮銀と下關

鮮銀下關支店の開設に就いては舊臘井上營業課長同地に出張各般の狀況その他を調査して歸鮮したるに付本店にては該調査を基礎として總督府經由中央政府に下關開店の許可申請書を提出し居り許可あり次第開店の運びに至るべく目下次期議會の休會明けを眼前に控へ居る等の關係上早急許可を見る事は困難なるべしとも思はれ從つて開店期の如きも全く不明なりと

◎印紙收入好況

昨年十一月中の印紙收入は四十萬八千四百六十八圓同月迄の累計は三百四十一萬三千四百二十七圓にして前年度同期の收入に比すれば五萬四千九百圓累計に於て七十萬六百八十二圓を增加せり

◎漢銀店長異動

七日左の如く漢城銀行にては支店長の異動を行ひたり

專任東京支店支配人 東京支店詰 淺井佐一郎
東京支店詰 大田支店支配人 田代英作
平壤支店支配人 平壤支店調査主任 亭彥一
本店檢查課主任 本店支配人代理 富永是[illegible]
大田支店支配人心得 今村勇[illegible]

◎越後丸代船

朝鮮郵船會社にて舊臘北海道本間岬にて坐礁せし同社所有船越後丸の代船を內地に物色しつゝありしが[illegible]

◎朝日土產會社認可

仁川府仲町五番地矢上正之助外十一名より申請中の水飴氷豆腐製菓、海苔藻粉の製造販賣並に之れに關する附帶事業等を目的とする朝日土產株式會社（資本金八萬圓）は一月七日附許可せられたり

◎電報延着

東京方面の電報は京城釜山間に故障あり頗る延着の爲め本紙締切り時刻迄に大部分到着せず

[illegible]降りて後頭を撲ち人事不省に陷りたるより早速本町警察署に擔ぎ込み[illegible]南大門外停留場附近を疾走中線路を橫切らんとして救助網に突き飛[illegible]頭高陽郡龍江面阿峴里百三十六番地鄭敬伯（三〇）は南大門驛前を電[illegible]

實業之日本新年號

◇本號は通常號の倍額の定價に付本號に限り四十錢（郵稅貳錢）

大正八年の我經濟界（社說）　好調を示した二大中軸は如何?…是れが最も心配の問題…樂觀すべきか悲觀すべきか見よ吾人の論評を

□貿易界は大正八年此一難關を 突破せよ 河津博士

□古き經歷ある實業界の巨頭が大戰の時局に依り新富豪となりし其樣合と共事業が俄に膨大せる 淺野一系統事業の解剖 淺野總一郎氏…新成金の如く花やかならざる淺野氏は如何に膨れたるか…

戰後の新世界　米國の覇權 世界の覇權を握らん…堀越商會主 堀越善重郎／英國再び世界に雄飛す…前郵船重役 根岸錬次郎／佛國は復興の大活躍せん…日佛銀行 渡邊千冬／獨逸の再造は可能か…前橫濱總領事 奧田竹松

新年劈頭痛快論文　デモクラシーは世界の大勢之を敵視する國こそ最も不安なり 新渡戶博士

大戰の與へた變動　敎育革新を大聲絕叫す…早大敎授 大內ヶ崎學士／產業の征服 戰襲來す…慶應敎授 大川合貞一／民心歸嚮の統一を提唱す…早大學長 平沼博士／世界の大改造進行中を見よ…／大理想の目標を高處に立てよ…／世界の新動力たる國際聯盟…浮田博士／國際聯盟と人種平等問題の主張…林毅陸／講和會議と政治家 諸大家十七大家／實業界の中堅たる四十男 百五十人傳

發行所 東京日本橋 實業之日本社 振替東京三二六

公示催告
京城府南大門通一丁目十二番地 申立人 淺木商店事務 木良吉
一、荷物受取證 一通 但內通一番號四號ノ一運送品種類壁紙一個荷造ノ種類布包一個[illegible]
右證券ノ所持人ハ大正八年八月六日迄ニ當院ニ其ノ證券ヲ提出シ權利ヲ屆出ツベシ若シ右期日迄ニ屆出及提出ヲ爲サザルトキハ其ノ證券ノ無効ヲ宣言スベシ
大正八年一月六日　京城地方法院

京城本町二丁目　川合時計店　電話一九一八　振替京城一二九一

京日案內　普通七拾錢一回前金　六回以上の前金は特に割引

生徒募集　日鮮生徒八名募集　希望者は本院に來談あれ　京城黃金町二丁目五四二番　シンガー裁縫機械會社刺繍院

毛皮なめし並仕立　鳥獸剝製標本類調製　鳥毛皮剝製賣買　京城本町二丁目　電話長二〇六五番

習字敎授　文檢習字科受驗者指導す　內規則要郵券三錢　玉水書塾

社員採用（內勤）　希望者は來談又は履歷書送れ　京城黃金町三ノ二九一　太陽生命保險會社京城支部

ほねつぎ うちみ くじき　一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場

牛乳配達人募集　年齡十七歲以上卅歲以下　希望者は本人直接來談あれ　京城東小門外　牛山牧場

鮮語科　英語科　新學期三ケ月修業　各科共十日始業

發動機賣却　モーター　但船に取付けのまゝ附屬品共　希望者は左記へ御照會あれ　龍山電話二六四番　アサヤマ

薩摩琵琶讓受たし　御希望の方は（電話八六番）京城本町二丁目八七番地　有馬良熊へ

職工至急入用　仕上工　センバン工　成丈高給者を望む　京城岡崎町　中根工場

書記兼會計採用　希望者は履歷書携帶來談あれ　京城黃金町一丁目　明治公債京城支部

九百四十……三百十四圓……◆百十九圓預金額四……二千百三十五萬四千二百十七圓にして……一箇年間に預入人員に於て……三千五百三十五圓に比す月末の現在高に比し預入人員に於二百三十萬千六百二十六人預金額

……飛降りて人事不省……吉野町一丁目九十一番地村城さよ（二一）は七日午後三時頃東大門電車九二五號が朝鮮銀行前を進行中飛

▲救助網に　同日午後六時頃蓬萊町二丁目五十二番地佐藤ほ（三一）は練兵場行一〇一號電車が

▲飛乘りて　同日午後八時……セブランス病院へ入院せしめ手當を加へたり……付け右目尻に裂傷を負ひたるにより北鮮會社にては直ちに鐵路病院へ入院せしめたり

◎ゲオルギー祭

エカテリンブルグ（二）

エ市中央のカツペイドラリノエ寺院の大廣場にて式典を
☒廢帝の幽閉の室にゐる常勝將軍

從軍記者　金谷眞

エカテリンブルグ市の名はウラルの寶石と共に西伯利旅行者の記憶に遺る、殊に近年はオムスクから露都へ往く旅客の爲に此の北鐵が捷路で且つ便利となつた――チエリヤビンスク經由は少々南方の迂迴路となる、併し目下の處ではエ市から露都行きの本線並にエ市北方の支線は共に交通杜絶となつたエ市の前面ウラルの山中には目下頻りにガイダ少將の軍と過激派軍とが

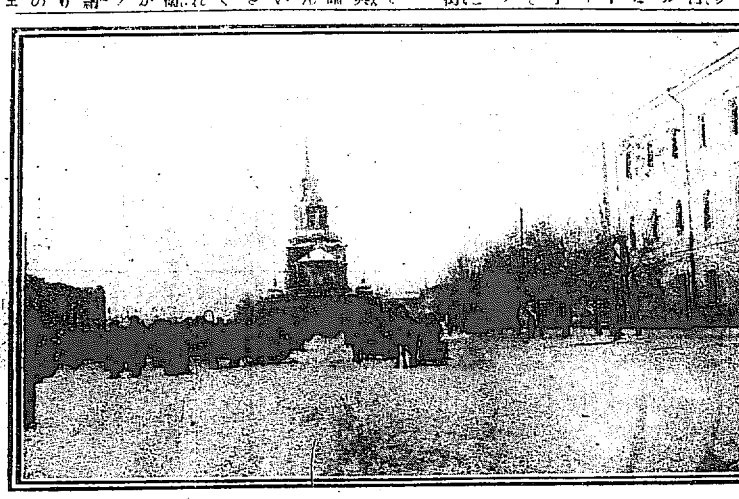
◇砲火を交へ　て居る最近ガイダ少將は北方支線迂廻の騎兵を用ゐて大に過激派を擊破したのであるがまだエ市から日本里數の八十九里のペルムの街には敵の本據が頑張つてゐる、記者は先づ街の中央大通り附近に出てチエツクのガイダ少將を司令部に訪うた少將とは浦鹽とチエリヤビンスクで二回會つたがチエリヤビンスクでは外套に緋羅紗の將官服を著けたのが印象に遺つてゐた、まだ今年二十八歲の青年で西伯利常勝軍の名に誇つて居る、將軍の司令部に於ける事務室は曾て地球に於ける月世界同樣の領地を知しめした

◇露國廢帝の　幽閉された一室であつた、且つまた陛下は憐れな廢帝の銃殺された部屋であつた、不幸にして將軍は不在であつたが廢帝の室は充分に觀るとが能きた、此の日エカテリンブルグの街は紅白のチエツクの旗と綠白の西伯利政府旗と黄白黑のゲオルギー勳章旗とで飾られてゐる、なる程今日の十二月九日は露曆の十一月廿六日で毎年の恒例ゲオルギー祭の當日と解つた、街の娘や子供や紳士や妻君などがぞろ〳〵ぞろ〳〵と中央のカツペイドラーリノエ寺院の方に行くから自分もこれに隨いて行つて見ると大きな街の十字路に當る

◇お寺の前の　大廣場で今し盛大なるゲオルギー祭の式典が擧げられてあつた、廣場の周圍には見物人が黑山のやうに取圍んでゐる祭場を見ると夥多の美しい旗を揃て並べて中央には緋の坊さんが祈禱み唱へてゐる前して多くの灰色の軍服の兵士達に圍繞された裡には此日の御主人役エ市の衞戍司令官以下金ピカの露國將校が居並んでチエツク側からはスラフアネツク將軍以下の劍光帽影が綺のやうである、式は一時間ばかりの後に了つたが其の間チエツクの司令官スイロウイ將軍は自らチエツク並に

◇露國の將士　に對しゲオルギー勳章を授けた、恰度此の日はガイダの軍が北方クシワの強敵を破つて再び鐵道線路を迂廻して新戰場に向ふ當日だつたので勝ち誇つたる勇士の面々何れも面目を施したやうであつた、式が終るとこんどは兵士の分列式―兵士は何れも傘作堂々とウジイゼンスキーの大通りへ出る、見れば日本の小銃を擔いだもの騎銃を肩にしたもの種々な鐵砲を持つて居る、また先頭の方には日本の歩兵銃が玩具のやうな巨漢が居るかと見れば後尾には子供のやうな十六七歲の兵隊も居る、其處へ西陣織の刺繡旗を押し立たやうな

◇露國軍旗が　來た、寫眞を撮り〳〵擧手の禮を試みると『ヤア!!!あの日本人が敬禮したぞサア寫眞の邪魔になる除いてやれ〳〵!!!』と大騷ぎする老爺が居る其處へ續いてチエツクが來た、軍旗は紅白に何か紋章のあるやうなもので今日のゲオルギー祭には各地の代表部隊が一個大隊來たのであつた、チエツクの軍旗は確五つ



◇エカテリンブルグ市……エ市大通りウジイゼンスキー街にてゲオルギー祭の分列式を見る群集（金谷從軍記者撮影）

六つ過ぎたと思ふが有形にこれは粒も揃ひ步武肅々たるの感があつた、續いて砲兵が通る『日本の新聞記者!!!新聞記者!!!薩克〳〵!!!』と隣の爺さんが注意して吳れた、見れば哥薩克の先生

◇舊式の槍を　物干竿のやうに突樹て、ポカ〳〵ポカ〳〵!!!と馬の脚並を揃へて行く、續いてゲオルギー勳章を三つ四つも下げた將校の一隊が來た、お次に又在鄉軍人諸君が來た、消防組が金甲を冠つて來た、群衆の中には人形の落ちた銅像臺の上にかぢりついて黑山のやうになつてゐる連中もあつた、街の中央には例によつて市場がある、此處で朝鮮人に會つたから何人居るかと尋ねたら廿人居ると語つた、寶石の磨き工場は五箇所あつてその中ウエルフイセツキ工場といふのが最も大きい併し中には一寸巴里に輸出されて精製の上また逆送される品もあると聞いた、鐵山は

◇ウラル山中　至る處にあつて技師には多く英、佛、獨、瑞典人が居る、博物館は見ずに其の夜出發した、此處と歐露のペルム市との關係は恰度チエリヤビンスクと歐露ウファ市との關係でカマ河から溯航した物資はペルムを經て先づエカテリンブルグに入り次ぎにウラルの鐵山に浸入る、停車場で買つた白樺の額は粗野なウラル趣味のものであつた、他に紅、綠色の瑪瑙石にウラルの鐵で造つた雞の鎭物などもあつた、寶石なども自分には一向用事のない代物であつた（十二月十一）

◎蘆花氏佛國へ

平和の熱愛者として
平和の佛蘭西から何を土産に

『帝都を離る、唯三里、電車が通ふ千歲の村に住みながら、自細の繩の因業から、こゝ四年と云ふもの心の戸も

△門の扉も　はたと鎖し切つて……』と、武藏野は粕谷の里に隱栖してゐた德富蘆花さんは、その心の戸も門の扉も押し開いて、平和の西さす佛蘭西へと行く

この話は最近に定つたので、いま粕谷の『御殿』では旅行の準備に忙しい、而して準備の出來るのを待つて、近々に

△鹿島立つ　筈であるこの度の旅行には、曾て巡禮紀行の折『伴なひ行く可かりし』が遂に殘して行かれた夫人愛子さんも一緒との事で、こゝしばらく粕谷の春はさびしくなる、さて此度の佛國行きは何の意味か、勿論平和會議と何の關係もあらう筈はないが、平生から平和の熱愛者としての氏の事であり

△新らしい　文明、新しい世界、平和の開け行く泉の土地へ足を入れて、その懐しい大氣の中に包まれやうとの氣持は十分に察することが出來る、金はどこから出る？そんな事を問ふは野暮で、例の『新春』だけでも五萬を刷つて二千しか賣れ殘りのない盛況二割の印税で、定價一圓六十錢だから

△一萬六千　の金は入るわけである、彼地の見聞記を約しさへすれば、萬金は立ちどころに成ると云ふものである、蘆花氏が平和の佛蘭西行！その土産は何か、トルストイの『戰爭と平和』のやうな大作で、もあらうか

◎ポンベー虎疫猖獗

客月二日頃より孟買市にコレラ病流行し同市は一日平均四十名の死亡者を出だし居りしが漸次猖獗となり目下一日百二三十名の死亡者を出だしつゝあり（東京）

◎不正な石油

一般購買者は注意せよ

近來咸鏡南道特に豐山方面に於て販賣されつゝある石油は品質不良のもの多く且つ石油中に多量の水を混入せる如く思惟さる、節めるを以て同地憲兵隊にては販賣者全般に亘り嚴密なる調査を遂げたるに其の原因は地方販賣者の不正手段に非ずして全く

▲中繼商人　の奸策若くは製造元の不正手段に出でたる事判明したり而して該不良石油の內容を檢するに一斗入の大罐中約一升の水を混入しあり中には八百匁の石塊を投入しあるものあり其筋の調査せる所に依ば三等不良石油は

▲北青方面　より仕入れ來りしものにして既に他地方にも散からる撒布し居れるもの、如しと云へば一般需要者は石油の購入に際し注意を要すべし

◎殺して頭髮を燒く

榮州の馬子殺し捕はる

慶尚北道榮州郡榮州面邑內尹佐鏧（三〇）は舊臘下旬同郡安東面丹村洞馬夫韓聖洙（三〇）の馬に乘り奉化郡乃城面馬底里の路上にて馬を降り隱し持ちたる棍棒を以て韓の頭部を亂打して人事不省に陷らしめ其身體を山中の小松に括り付け頭髮に火を放ちて燒き其上に松葉を蔽ひ被害者の所有金約百圓を掠奪して逃走せるが犯人尹佐鏧は犯行の翌日奉化憲兵分隊の手に逮捕されたり

◎山陰方面雪深し

▲旅客は注意を要す

舊臘來山陰方面は降雪頻りにして時々之れが爲め列車不通となること稀ならざれば滿鐵にては同方面經由旅客に對しては假令線路開通中と雖も當分の內は旅客に注意を與ふることゝなれり

◎惡性菌はまだ有る

感冒に注意せよ

歐洲戰亂の戰死者よりも遙に多數の死者を出した世界感冒が昨冬當地を襲うて市民を惱めた上やつと影を潛めたかと思ふと近來又々感冒が流行つて各病院共大分感冒患者が多い而し此感冒の大部分は新年に入つてから急激に寒氣が增したに原因して居るが中には昨冬流行の世界感冒の

◇黴菌を　もつた患者が段々ある右は全く終熄したと思つて居た世界感冒の黴菌が何處に潜んで居たのか再發したのである兎に角除り流行せぬ內に用心する事が肝腎であると田中丸病院長は語つて居た

◎東京相撲……

新入幕

▽錦洋　井筒部屋の重鎭にして五月場所の好成績を以て新に入幕せり香川縣綾歌郡阪出に生れ野口高次郎の三男慶治と呼び大正三年頃まで新橋の砂糖問屋高德方で倉庫の監督を勤め力量拔群或人の勸めにて大正四年五月井筒部屋に入り五年一月場所に幕下に附出され翌年一月全勝し大正七年一月十兩に進み今回入幕せしが病氣の爲め春場所に登場し難しとは惜むべし

▽白岩　宮城縣大槻村與田十次郎次男完二と稱し故尾車部屋の門下たりしが今は峰崎部屋に屬し前場所に意外の好成績を得て今回新に入幕せり得意は右四つの押し

▽友ノ浦　岡山縣備中國妹尾町大倉高吉次男廿五歲にして出羽ノ海部屋に入り其取口敏捷にして場所毎に好成績を收め新に入幕す

▼新十兩

▽劔ノ浦　……縣……郡……と呼び力強く花籠部屋に入りて場所毎に好成績を收め今回十兩に進みたるが其實力は幕內力士に劣らず得意は右四つ上手投と櫓

▽駒木川　青森縣南津輕郡花舘村大字駒木、吹田謙太郎（二十五）と呼び（浪ノ音）の門下にて角力振は頗る敏活

▽光風　秋田縣由利郡小吉村の生、小段貞次郎にて當年取つて二十七歲故常陸山の門下

▽……風　神戸市上磯通六丁目……八十吉次男力太郎（二十五）と呼び伊勢ケ濱部屋

▽國久錦　……出羽海の門下にて大正三年五月力士となり體軀偉大ならざるも力量足腰強健にして……く昨年一月場所は全勝して敵味方を驚かし僅か十場所を以て今回新に十兩に昇進す彼れは宇都宮市川向町生れ當年取つて二十四歲

▽若ノ刀　富山縣婦負郡百塚村字宮尾松井辰次郎三男光之助と呼び師匠太刀山の郷里にて十四歲の時上京して小石川は水道町の三叉と云ふ酒屋に奉公してゐたが體格あり力量強く十七歲の時太刀山の門下に入り大正三年五月に初土俵を踏み大正七年一月幕下に進み今回十兩に榮進す得意は左四つの上手投

▽陸錦　大分縣……高橋長三郎長男福馬と呼び二十五歲、小倉野砲兵第十二聯隊に在營の折現福島地方裁判所長日高……、小倉の……少佐、大分の田村大佐諸氏に奬められ大正四年一月井筒部屋に入り五年四月場所を初土俵に六年一月全勝次で五月にも全勝して十兩に榮進したり

◈全鮮歌留多大會

來る十二日午前九時から
南山町梅の家に於て擧行
來れ、選手諸君!!!

歌留多のシーズンが來た、足曳の山鳥の尾のしだれをの長々し夜を同好の士が到る處で熱心に練習して居る折柄、斯界の猛者が一堂に會し思ふ存分其妙技を揮ふと云ふことは時に取つて非常に興味のある企てであらねばならぬ本社は歌留多趣味の普及を圖り斯道の發達に資する一端として『全鮮歌留多大會』を擧行する事となり、七日夜市內各歌留多會代表者の出席を請ふて是れに關する協議會を開いた、當夜の出席者はかさゝぎ會等井、みよしの會白田、みやび會阿部、つらぬき會毛塚、隼會下田、二葉會與野、鐵道組稻葉の七氏、種々協議の結果愈々來る十二日午前九時から南山町梅の家に於て是を擧行するに決し尙左記各項を決定した

競技規定

一、選手の持札は一律平等に二十五枚とする、從來は二十枚がお定りであつたが今回は特に東京歌留多界の競技規定に倣ふて二十五枚としたのである、札の配列は是まで通り橫二尺五寸以內三段でお手付に對する送り札は一枚である、一敗者は失格として次ぎの競技に參加する資格はなくなる、選手には賞品を呈する事言ふまでもなし

賞品

賞品は一等から二十等までの勝者に贈呈する事とし其品目は

一等賞　十八金製本社メタル
二等賞　同上　ネクタイピン
三等賞以下八等賞　純銀製本社メタル
九等賞以下　銀製本社メタル

と決定して居るが此外尙山の如き副賞品ある筈、參加希望者は會費金五十錢を添へ至急本社『歌留多大會係』へ申込まれ度し

◎松齡　會評初め　寳生流松齡會にては來る十二日午前十時より旭町新千代本にて新年初會を催すべく番組左の如し

羽衣……△高砂△……△東北△二人靜△猩々△番外葛城△鉢木△仕舞數番

◎有馬氏の琵琶教授　正派薩摩琵琶師有馬良熊氏は今回當地に來り京城本町二丁目八十七番地下村泰造氏方に滯留し同好者のため教授する筈なるが同好者の志ある向は……べし

故鈴木校長弔慰及奬學資醵金に就て

故元町小學校長鈴木喜津衛氏遺族弔慰及び奬學資醵金に就ては當時社告の通り去る十二月末日を以て締切り閉暇させしに尙ほ其後追附し來る向きあるも取扱上の都合により期限經過後は本社等に於て受け付けざる義に付篤志の向は直接元町居住遺族宛送附せられ度し

朝鮮新聞社
京城日報社
每日申報社

家庭雜誌新年號

緊張したる記事！
家庭婦人の顧問!!

口繪　□遣羽子……伊東深水
懸賞（其一）新年から改めこと度
……吾が向ふ日と覺す（涙江）……義理一篇……附答品（いくす）……機會を捕へ（ちさ子）
□新世帶のお正月の作法……仁科……子
□大戰後の婦人の覺悟……井上秀子
□家庭と戰爭と平和……湯原元一
▽兄弟三人とも揃つて醫學博士……佐治實然
▽氣を若く持つは成功の基……後藤……
▽居心地の好い家屋の建方……
▽主人を喪つた私の新年……野村德子
□年賀客の接待方……柳八重子
□健康な人は仕合……櫻田……
□十四人の子供の親……松本季子
新舊折衷　年中家庭行事
□正月を家政に利用せよ……阿部……子
□お正月と病氣……桑島貫一
□手輕なお正月の重詰……金士……子
懸賞（其二）虚禮に惱まされて
……身分相應（すまき）……植民地の惡風（貞子）……無駄を知らぬ生活（英子）

新年大附錄
小說　上司小劍　女禮者
小說　笹川臨風　後の本能寺
小說　後藤宙外　子持竹

□家庭に幸福の捷道……市川源三
□子煩惱は育兒を過ろ……太田孝之
□春の晴衣の始末……河口愛子
▽されど私の袖は乾かぬ……藏子
▽亡き子供を抱へて……山中若子
▽產婦人科問答……土岐卯吉
▽小兒科問答……雨宮直
長篇小說　桃花帖（新）……佐藤紅綠
▽頭腦の良くなる飲食物……篠崎咲子
▽餅のお料理……渡邊きみ子
▽懸賞判じ繪當選披露と新題提出
▽懸賞和歌・俳句▽家庭笑話外
□正月の化粧と衣服の着方……古田梅子
□新春を飾る活け花……杉浦櫻下
□年賀狀の認め方……佐藤……
□正月料理と食餌療法……
歷史小說　櫻の庭（第三回）……渡邊霞亭
挿繪小說　雲のゆくへ（特別記事）……長田幹彥　伊東深水
道中膝栗毛……十返舍一九作　近藤浩一路
定價　本號に限る　金貳拾錢　郵稅一錢半
東京本町　博文館　振替東京二四〇番
お正月に最も適した讀物を滿載せる雜誌

洋家具意匠圖案懸賞募集

一、募集ノ種類　事務室用卓子椅子及ビ應接室用卓子紐椅子ノ優美ナル意匠及堅牢又ハ輕便ナル考案ヲ募ル
一、應募答案　圖面ハ縮尺十分ノ一トシ正面、側面、平面ノ三種ヲ作リ色彩ヲ施サレタシ、京城熊平支店廣告部宛ニテ封筒ニ應募圖案ト記シ送ラレタシ　原稿ハ返戾セズ、圖面ニハ氏名ヲ記入セラレザルコト
一、審査ノ方法　數名ノ專門技術家ヲ煩ハシ詮衡審査ヲ行フ
一、締切　大正八年一月十日限リ
一、發表　大正八年三月上旬京城日報紙上ニテ發表ス、當選シタルモノ及ビ當選セザルモノト雖モ熊平○○型ト命名シテ製造販賣スルコトアリ、應募圖案ハ適當ノ箇所ニ於テ一般公衆ノ縱覽ニ供ス
一、賞金　左ノ通謝ヲ呈ス　一等　金二拾圓御一人、二等　金十圓御一人、三等　金五圓御二人、四等　熊平製ハレー萬年筆（定價四圓）一本宛御五人、五等　熊平製ハレー萬年筆（定價三圓）一本宛御十人

右ニ對スル照會ニハ必ズ返信料御添付ノコト

京城　熊平支店　電話長　六二四番　三一一五番

理科少女

大正八年一月十日發刊　創刊號
定價一冊金廿五錢
東京市丸の內　東京電氣世界社內　日本少年理化學會

理化少年

一月號　一月十日發行
定價一冊金廿五錢

◎謹告

愈々寒氣が襲來しました　米價調節の聲は一轉して炭價調節の叫となつて居ります　如何にして寒氣を凌ぎ又何を以て炭價を調節するかが刻下焦眉の社會問題であります　弊店が採暖裝置として最も經濟的にして且便利なる宮崎式ペーチカを御推薦するのは獨り個人經濟の爲めのみではありません

京城府漢江通八番地　宮崎組　宮崎吉太郎
電話龍山五四二番　振替口座京城五四〇二番
發明者專賣

銘酒　金釜　銀釜　菊正宗　楠正宗
特約店　三巴京城支店　電話三七・八五・〇三番

資本金　貳千貳百七拾萬圓
積立金　壹千參百參拾萬圓
總預金　貳億七千萬圓
株式會社第一銀行京城支店
京城本町二丁目　振替貯金京城一一一番　電話二二一・一六〇・二七一番
頭取　佐々木勇之助
支配人　竹村利三郎

母と子 (七十三)

北島春石作 森田久畫

密談(一)

九段は招魂社の片ほとり、富士見町一丁目の角に魚久と云ふ料理店があつた。

表を市ケ谷行の電車が通り、あまり閑靜とは行かないが、それでも二三は奥まつた座敷があるので、吹き曝しのお濠端では相談もされず、ともかく兩人はこゝで晩飯をしたゝめる事にした。尤も雅巳は近頃二三度飲みにも上つたので、女中のうちでも顔馴染のがあつた。

いつもならパツと陽氣に一騒ぎするのだが、今日はそんなのんびりした氣分にもなれず、兩人とも沈默がちに杯をあけてゐる。

『いや、もう、戀うなつたら人間を廢業するに限ります。』と、哉よりは若々しい氣持で、ちつと御神酒で調子づいて來ると、艶な手つきでステテコでも踊り出す剛平が今日ばかりは物の哀れを悟り顔に悄れ切つて、酒も飲む氣になれぬらしく、騎蕩の隅に、杯を伏せた。

『俺こそ痩ても枯ても高松剛平！今でこそ元の歩に還つたものの、一時は米成金の仲間入りをしかけた男で、女々しい愚痴を並べたくはござせんが、二人までも大切な娘に家出されては、何となく老行が心細くなりますわい。』

今日の雅巳は彼の愚痴を嘲笑ふ氣力もなく、

『いや、その御落膽に就ては、十分に御推察申すことが出來る。』と慰め顔に言つた『今朝ふつと聞き込んだので、別に事の眞僞を究めた譯ではないが、志保子が家出した後、つい近頃になつて又淡紅子さんが家出したさうですな。』

『左樣、それも唯家出をしたならば、若いうちには有勝なことで先方から詫て來るまでは撥ひつけずにもおくが、何分にもその、小一萬近くの大金を盜み出して……それも儲けた金なら我慢もされるが、四苦八苦の酷工面して生み出したゞけ、さても後の防ぎがつかぬ始末。』と、さんざ泣言を並べた揚句『そこで、いつか澁谷でお目にかゝつたきり御無沙汰はして居るが、今日は思ひ切つて御相談と出かけた途中、まづ行違ひにならぬだけが見付けものでした。』

『何う云ふ御相談かお伺ひはするが、昨今はちと手許が不如意ですからな。』

『いや、何處もおなし秋の夕暮でも、貴方が御關係なさる會社の破産一件……それも滿更聞き込まぬ譯でないから、そんな御迷惑は持込みません。』

雅巳の濃い眉は打顰まつた。

『もう御存知ですか。』

『廣いやうでも狹い世の中、貴方が淡紅子の家出を御承知のやう、俺も昨夜の中にちらりと聞込みましたわい。』と、剛平は誰でも飲んだやうな顔の面『さて、御相談と云ふのは志保子の一件……貴方にはもうその隱れ家がお判りで。』

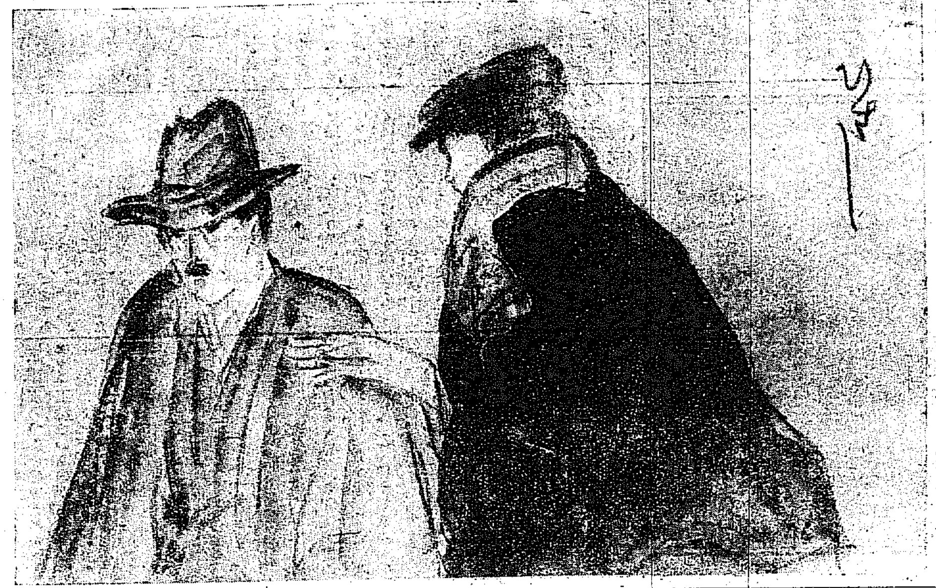
『無論、森泉の叔父が秘密の鍵を握つてゐると知れたから、先刻も激しい爭論を惹起したのです。』と今更のやうに無念の齒がみした。

『高松さんには實際お氣の毒であるが、今後如何なる事情が起らうとも、志保子は斷じて宥恕されぬとお諦めを願ひたい。』

『それ、それ、それこそ手前も望むところで。』と、いくらか怨みを吐返した鑑『貴方は幸枝さんを、俺は又志保子を、何うあつても森泉の手から奪ひ戻さねばならぬが……その事で是非協力一致と云ふ條件を組織したいと思ひますがな。』

『それが可からう！相手が森泉の叔父だから、十分に要心してかゝらんと、却つて逆捻の手傷を負はされるから。』

『で。俺が漸と考へ出した一策……まづこの手段ならば巧く行かうかと思ひますぜ。』と剛平はだん／＼乘氣づいて來た。



眞の美人と成るには
皮膚營養
清美液
一名『あれしらず』
定價 金二十四錢 金十三錢 金五十五錢
到る所の化粧品店藥店にあり

故鈴木校長弔慰及奬學資金寄贈芳名

(第二十二回)

一金三圓 京城府麻化院職員一同
一金一圓 江原道金化公立普通學校 鶴岡貞平
一金五拾錢 同 神崎修
一金五拾錢 同 公舜院
一金二拾五錢 同 李哲薫
一金一圓 忠清北道槐山公立普通學校 職員一同
一金一圓 西大門郵便局 有志
一金五圓 南大門郵便局 松原榮
一金拾五圓 永原普林邱門學校 職員一同
一金一圓四拾錢 大宮きよ
一金三拾錢 大塚保枝
一金二拾錢 兒島ヨシ子
　　忽那シヅ子

一金三拾錢 霜島ツル
一金一圓 龍山元町三丁目 草野禎治
一金一圓 龍山第二小學校 山田顯藏
一金一圓 同 西原彦郎
一金五拾錢 同 田阪松太郎
一金五拾錢 同 越智照二
一金五拾錢 同 下平確一
一金五拾錢 同 谷口辰治
一金一圓 平安南道教育會學務員 工藤英一
一金二圓 平安南道教育會長 篠田治策
一金拾一圓五十錢 平安南道廳 田中直通外廿五名
一金六圓八拾錢 同 木係一同
一金五圓 平安南道平壤公立尋常高等小學校 職員一同
一金五圓 平安南道公立尋常小學校 職員一同
一金一圓十錢 同了公立普通學校 横塚留外一名
一金一圓八十錢 平南孟山公立普通學校 松本壽三郎外四名
一金二圓三拾錢 同安州公立農業學校 井上平外三名
一金八拾錢 同价川郡廳 吉元鎬、大城銀之助
一金一圓 同大同郡廳 朴箕錫
一金一圓 同 杉浦齊
一金一圓 同 山下義康
一金一圓 同江東郡廳 柳鍾璜、添野恕夫
一金一圓四拾錢 同三和公立普通學校 君ケ袋秀作外三名
一金一圓八拾錢 同平原郡廳 本田常吉外四名
一金五圓 同平壤公立高等女學校 職員一同
一金一圓九十錢 同龍岡公立普通學校 黑木哲外三名
一金一圓七十錢 同中和公立尋常小學校 楠田政吉、鬼塚ツル
一金一圓五十錢 同安州公立尋常高等小學校 男井潔、近藤清市
一金壹圓五十錢 同德川郡廳 韓仁根、前田彦助
一金五圓 同平壤府公立普通學校 職員一同外一名
一金一圓 同立石公立普通學校 職員一同
一金三圓四拾錢 同中和公立普通學校 馬場太刀外六名
一金壹圓四拾錢 同江西公立尋常小學校 川越直正
一金二圓八十錢 同龍山公立普通學校 吉野庄吉外三名
一金一圓八十錢 同价川公立普通學校 岸保治外四名
一金五十錢 同大同公立普通學校 江頭千代太郎
一金一圓四十錢 同石岩里公立普通學校 眞鍋忠男外四名
一金二圓 同平壤女子公立普通學校 職員一同
一金五圓 同鎭南浦公立普通學校 職員一同
一金五圓 同鎭南浦公立商工學校 職員一同
一金三圓 同陽德公立普通學校 鶴田正外四名
一金六圓五十錢 同鎭南浦公立尋常高等小學校 岡本勝藏外十一名
一金三圓五十錢 同江西公立普通學校 中村德一助外五名
一金三圓 同順川公立普通學校 [illegible]
一金五圓五十錢 同永柔邑內 朴相駿外十名
一金一圓六十錢 同寺洞公立尋常小學校 野村小仙外四名
一金二圓九十錢 同安州公立普通學校 飛田年尾外八名

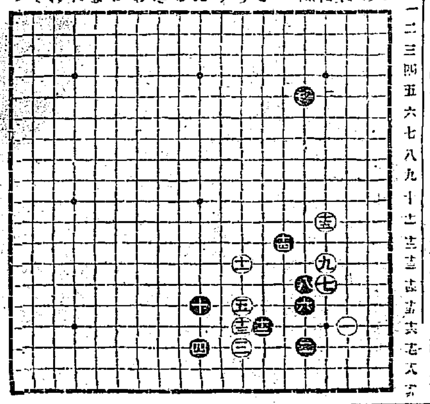
一金五十錢 同順川公立尋常小學校 澤村速生
一金二圓二十錢 同祥原公立普通學校 小貫一郎外四名
一金一圓 同孟山公立尋常小學校 日浦諦八
一金五十錢 同安州郡廳 金義善
一金二圓七十錢 同成川公立普通學校 下村昌哲外五名
一金一圓 同湖里公立尋常小學校 佐藤猛道
一金二圓 同順川公立普通學校 野田武治外四名
一金二圓 同寧遠郡廳 田總龍外一名
一金一圓 同安岳公立普通學校 木場重夫外三名
一金二圓九十錢 同孟山公立普通學校 西菊治外三名
一金一圓五十錢 同孟山郡廳 金桐弼外一名
一金壹圓三十錢 同陽德郡廳 金顧彬外一名
一金三圓 同陽德公立普通學校 進正雄外一名
一金一圓 同海鴨公立普通學校 金秉郁外一名
一金二圓廿錢 同中和郡廳 尾園房之助外四名
一金一圓四十錢 平壤府廳 淺田鵬外二名
一金四圓五十錢 同平壤第二公立普通學校 深川傳次郎外九名
一金二圓 同龍岡公立普通學校 職員一同
一金一圓七十錢 同安州公立尋常高等小學校 井田陸藏外四名
一金五十錢 同新里公立尋常小學校 山口實
一金三十錢 平安南道平壤 栗原八重三
一金三十錢 平壤 平壤普通學校
一金五十錢 同德川郡廳 小川清藏
一金五十錢 同 崔象鎬
一金一圓八十錢 同成川公立普通學校 佐藤鐵藏
一金一圓九十錢 同德川公立普通學校 太田政平外三名
一金一圓也 長谷川町二一二 大森嘉治
小計金貳百拾四圓貳拾五錢
累計金五千參百拾五圓六拾貳錢五厘也

讀者の領分

らくち(?)ゝちに失し申候、甚だしきは戸を締めして御家の讀者は戸の隙間から名刺を挾み申候、讀者は一向新年に存ぜぬ者に候ても戸を締めいられた宅に年始廻りする事は……郵便局前にてサッ(讀者)本年元旦に近所の知人宅を回り年賀の意を表して……郵便局にて一齊に年賀郵便受付をせられた……人は受取るべし(雛鍋杉村生)▲京城の無頼漢者にも……全部のシメ飾りは忘れ又は襲の黑飾りだ嫌いす所だ(ヨツモノ)

碁戰(一)

三段 山平 圭齋(白)
二子 南 主



壹千五百組限り
上等毛布
一組(二枚) 一圓五十錢
東京市日本橋區本石町一丁目… 服部商店にて前記上等品を…色毛布の處分投賣を始めたが…の善き品物に直段…は平素信用ある同店の…にて決して他店の…處也而も二枚つゞき一組乙號…の二圓五十錢甲號三圓五十錢特別上製品四圓二十錢も白毛布も同…間別に小包料…同店より…メッキで…を一組の注文毎に…進呈すると云ふ…宣傳にならぬ内ハガキで申込ば送料なども…で送ると

らしき・(?)葉了
婦人用 美顔ドロップス

請合藥 りん病
請合藥 ばい毒
東京市大門外停車場前 ドラッグ商會 滿鮮本部 電車通り ドラッグ商會 支店
龍山 驛兵場電車交叉點前 同支店
(現物あり注意詳細八日の本紙御覧)

天下一品 白鶴
仁川 增本酒店
本町三丁目 電話一〇九番

正十四金 保險付
ゴール萬年筆特價提供
▲特價壹圓八拾錢 ▲前金送料九錢 代金引換三十錢
品質の優秀なる舶歐米品に優る共劣らす價格の低廉なる事に他比類なし而かも構造は自動インキ吸入式にして安全インキ止の装置あり運筆輕妙。體裁高雅眞に是理想的萬年筆なりと誇言して憚らず官公吏及新進事務家諸子は用ひて事務能率の增進を計るべし學生諸君は採りて以て貴重なる時間と勞力の節約に供せらるべし敢て薦む
▲特約販賣希望人士は有利御相談申候
東京市京橋區弓町十七番地
發賣元 福田商店
電話京橋一六五一 振替東京二〇〇七番

味噌の横綱 ほまれ味噌

化粧百態 俊畫
『歌留多會に』
歌留多會への行きしな。早化粧にクレームレートを下地に引いて、レート粉白粉の粉刷き。まあ手軽に美くしい事。そして、すこしもこれでお化粧崩ぐれがせないんだもの……

晴れて……美くしい
レート白粉
▼お衣裳を引っ立てる お化粧には……

◇お衣裳と顔うつり
初春のお衣裳に、お化粧が調和して居なかつたら、あたら美人でも、御新調のお召着でも、少しも晴れ立ちません。即ち、お衣裳に合ひ、お顔うつりのよいお化粧をしやうと思へば、自然の白さに艶のある白粉でお化粧をなさらなければ、眞の美くしさが出ません。

◇上品に落附がある
レート白粉の附り伸びのよいのは勿論附けて自然の色艶がありお化粧栄ねが上品で落附きがありますからドンナお召着にもピッタリとお化粧が適ふ上に崩れたり色がクスムだり致しません。だから一日冴ね冴ねとして、初春の寒さにも決して肌荒れせず却つて肌理を整へる特長を持つて居ります。

東京・大阪 平尾贊平

下關期米特電
神戸期米特電
仁川期米
仁川米豆取引所 八日の三月限